日本大学FD推進センター

ミライデザイン

Learning Guide

ミライデザイン

Learning Guide

日本大学での学びの基本がわかる本（保存版）

ミライヲツクル

Learning Guide

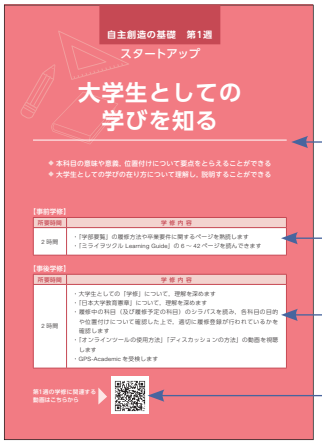
日本大学での学びの基本がわかる本（保存版）

ミライヲツクル と一緒に楽しく取り組もう！

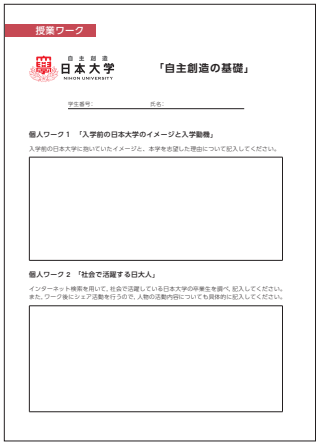
「自主創造の基礎」履修Navi

この「ミライヲツクル」は，全学共通教育科目の「自主創造の基礎」の授業の進行に合わせて作成されたガイドブックです。事前学修や事後学修に関する内容が掲載されているので，大事に保管しましょう。

1 このガイドブックの見方・使い方



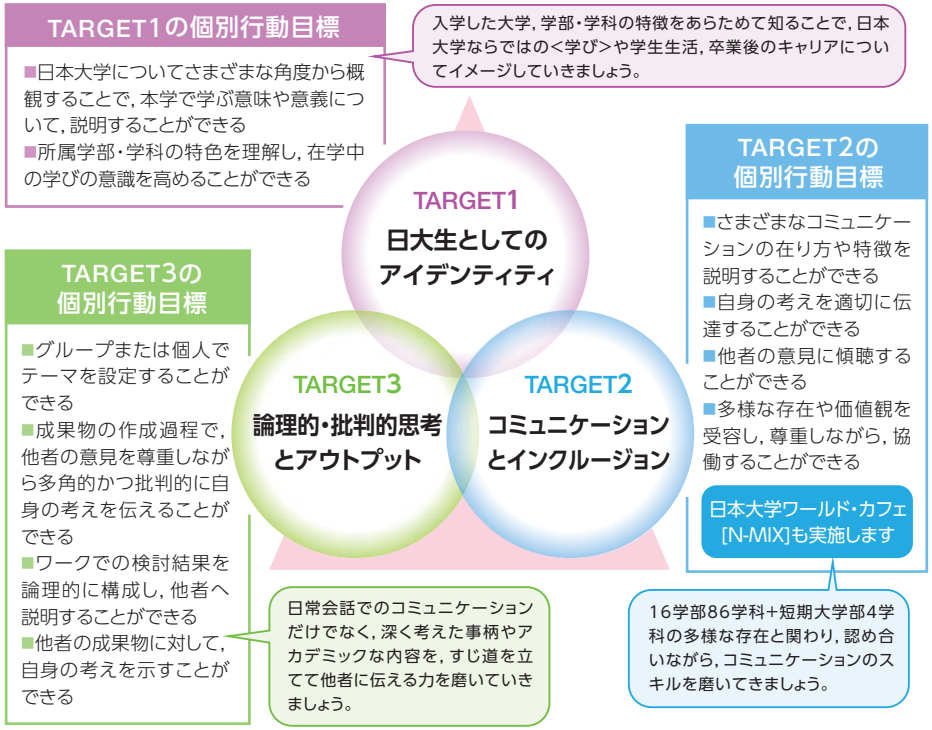
ガイドブックの中に，左図のようなページがあります。各授業のテーマと目的，事前・事後学修の内容などが書かれています。全15週分あります。これを参照して，授業に取り組みましょう。



授業回によっては，個人ワークなどがあります。その授業週に関わるページには，このガイドブックの中に，左図のようなワークシートを掲載しています。実際に記入する際には，教員からシートのデータファイルの提供があると思いますが，授業に取り組むにあたり，確認しておきましょう。

2 「自主創造の基礎」の概要と，成績・評価について

「自主創造の基礎」は，大きく分けて3つの構成（TARGET 1〜3）になっています。それぞれのステップの目標を理解して，取り組みましょう。



全15週の流れは下記の通り。各授業回で提出する振り返りシートおよび課題の取組が成績評価の対象となります。

※数字は成績評価の各授業回の配点です。15週合計100点満点で評価します。

Contents

「自主創造の基礎」履修 Navi …… 2

自主創造の基礎　第1週　スタートアップ　大学生としての学びを知る …… 5
あなたのミライをひらく「自主創造できる人」を目指そう！ 6　「自主創造」のための道を示す日本大学教育憲章 8
社会で活きる学びのために 10　授業形式の特徴を理解しよう 17
何を学ぶか，何の科目を選ぶかは，あなた次第 21　高校とは違う，大学ならではの学修方法と必要なスキル 22
履修とシラバス 33　成績・卒業要件 37　卒業への道のり 42

自主創造の基礎　第2週　TARGET1　日大生としてのアイデンティティ　日本大学を知る① …… 43
日本大学の歴史を知り，自分が学ぶ大学の背景を理解しよう 44
授業ワーク　個人ワーク1「入学前の日本大学のイメージと入学動機」／個人ワーク2「社会で活躍する日大人」 46

自主創造の基礎　第3週　TARGET1　日大生としてのアイデンティティ　日本大学を知る② …… 47
8つの能力を育てるために，様々な学び・体験の場を活用しよう 48
授業ワーク　「在学中の大きな目標を考えよう」 53

自主創造の基礎　第4週　TARGET1　日大生としてのアイデンティティ　自身の学部を知る① …… 54
学びをサポートする大学図書館 55

自主創造の基礎　第5週　TARGET1　日大生としてのアイデンティティ　自身の学部を知る② …… 57
あなたの学びを可視化する「アセスメント・テスト」 58

自主創造の基礎　第6週　TARGET2　コミュニケーションとインクルージョン
コミュニケーション・スキルの錬成① …… 61
メール送信のマナー 62

自主創造の基礎　第7週　TARGET2　コミュニケーションとインクルージョン
コミュニケーション・スキルの錬成② …… 63
グループワークとディスカッション 64

自主創造の基礎　第8・9週　TARGET2　コミュニケーションとインクルージョン
コミュニケーション・スキルの実践〈日本大学ワールド・カフェ N-MIX〉 …… 66
多様な価値観がふれあうグループワーク「ワールド・カフェ」 67

自主創造の基礎　第10週　TARGET3　論理的・批判的思考とアウトプット
論理的・批判的思考の錬成①〈テーマの決定〉 …… 69
社会でも必須スキルとなる，プレゼンテーション 70

自主創造の基礎　第11週　TARGET3　論理的・批判的思考とアウトプット
論理的・批判的思考の錬成②〈章立てと作成準備〉 …… 72
資料や先行研究の調べ方 73

自主創造の基礎　第12週　TARGET3　論理的・批判的思考とアウトプット
論理的・批判的思考の錬成③〈資料の作成〉 …… 74
プレゼンテーション資料のデザイン 75

自主創造の基礎　第13週　TARGET3　論理的・批判的思考とアウトプット
検討結果のアウトプット①〈資料のブラッシュアップ〉 …… 77
聴き手に伝わる発表を目指そう 78

自主創造の基礎　第14週　TARGET3　論理的・批判的思考とアウトプット
検討結果のアウトプット②〈発表と質疑応答〉 …… 79
プレゼンテーションには誰もが積極的に参加しよう 80

自主創造の基礎　第15週　総括・振り返り …… 81
授業ワーク　個人ワーク2「後学期に向けた目標設定」 82

よりよい学生生活を送るために …… 83
快適な学修環境のための心得や大学のサポート 84　日本大学の一員として持つべき意識 88

自主創造の基礎　第1週

スタートアップ

大学生としての学びを知る

◆ 本科目の意味や意義，位置付けについて要点をとらえることができる
◆ 大学生としての学びの在り方について理解し，説明することができる

【事前学修】

所要時間	学 修 内 容
2 時間	・「学部要覧」の履修方法や卒業要件に関するページを熟読します ・「ミライヲツクル Learning Guide」の 6 ～ 42 ページを読んできます

【事後学修】

所要時間	学 修 内 容
2 時間	・大学生としての「学修」について，理解を深めます ・「日本大学教育憲章」について，理解を深めます ・履修中の科目（及び履修予定の科目）のシラバスを読み，各科目の目的や位置付けについて確認した上で，適切に履修登録が行われているかを確認します ・「オンラインツールの使用方法」「ディスカッションの方法」の動画を視聴します ・GPS-Academic を受検します

第1週の学修に関連する動画はこちらから

あなたのミライをひらく「自主創造できる人」を目指そう！

大学で学ぶということ

❖ 目的を持って，多くの経験を積み重ねよう

多くの人にとっては，日本大学の在学期間が，社会に出る前の最後の学びの期間となることでしょう。「教わる」「覚える」ことが多かった高校までと違い，大学は自ら「調べる」「考える」「答えを見いだす」ことが主体になります。皆さんが自立した大人で，本当の意味での「学び」ができると認めるからこそ，こうした大学の学修*が成り立ちます。「自ら考え，答えを見いだす」のは社会でも同じ。大学で学ぶことはつまり，将来の準備期間であるともいえるのです。

言い換えれば，単に専門の知識や技能を身に付けるだけでは不十分ということ。例えばあなたが建築業界を志望しているとします。そこでは，建築士資格などの建築に関わる専門的な知識や技能が必要ですが，「仕事」の場面を考えれば，顧客のニーズを正確に把握することも大切です。また，経済の動向や地域によって異なる価値観・文化，建設による環境問題への影響など，社会全体にも目を向けていなければ真に求められる人材になることはできないでしょう。社会との結びつきを理解し，実践力を身に付けていくためには，単に教科書を覚えるだけでは不十分です。友人や教員と様々な事柄について議論をし，多様な価値観を受け入れる能力を，日々の授業の積み重ねにより身に付け，自らの“キャリア”とする必要があります。日本大学ではそのような積み重ねの教育を重視した授業を編成・提供し，学生生活をサポートします。

まずは，どのような自分になりたいのか，そのためにはどのような経験を積めばいいのかを考えてみましょう。これから何を，どう学んでいくか，方向性が見えてくるはずです。

学修

大学で“学び”，教育課程（規定のカリキュラムや技能を学ぶ課程）を“修める”こと。学部等ごとに定められた「教育研究上の目的」を達成するための「学ぶ行動」のことでもある。知識や経験を蓄える「学習」とは区別して用いられる。

❖ 批判的なものの見方を身に付けよう

「自ら学ぶ*」ということは，「答えのない問い」に対して自ら考え抜くことでもあります。

大学の学びでは，批判的にものを見ることが重要です。それは「非難する」ことではなく，どのような事実や根拠に基づいているのかを確かめ，他者の意見を多面的・客観的に理解した上で，自らの考えを立てること。そのためには，他者の意見に耳を傾ける，得た情報を冷静に整理する，自分の意見を持つ姿勢が必要です。

「自ら学ぶ」
「自ら考える」
「自ら道をひらく」

日本大学教育憲章（P.8）に明示された，自主創造のための３つの構成要素のこと。これらを支える８つの能力を身に付けられるように，本学の教育は行われている。

❖ 多様な友人との出会いを楽しもう

日本大学には全国・海外から，様々な目的や意志を持った学生が集まっています。様々な授業やクラブ・サークルなどで，多くの人々と出会うことでしょう。自分とは異なる意見や価値観に出会い，あなたの考えが変化するかもしれません。多くの友人をつくり，学生生活を楽しむことも「自主創造」の一つ。学部・学科の外に出て，行動を広げていきましょう。

「自主創造」のための道を示す日本大学教育憲章

1 「自主創造」とは，何か

皆さんの中に，日本大学が掲げる「自主創造」という言葉の意味を知っている人はいるでしょうか?

平成 19（2007）年度に日本大学の教育理念を「自主創造」と定めました。これは創立 130 年を超えてなお，創立時の理念を現代に受け継ぐものでもあります。その理由は，この不透明な時代にこそ「自主創造」を発揮できる人材が求められていると考えるからです。どのような局面でも挑み，乗り越え，あるべき自分を創ろうとする精神や行動こそが「自主創造」。皆さんの長い人生に必要な力であり，日本大学で一番に学んでほしいことでもあります。さあ，皆さんの未来を切りひらくために，「自主創造」の基礎をつくっていきましょう。

2 あなたのミライに必要となる 8 つの能力を示した「日本大学教育憲章」

どのようにすれば「自主創造」できるようになるのでしょうか。それは「日本大学教育憲章」の中に答えがあります。日本大学の卒業生が在学中そして卒業後も発展させていく能力を「日本大学マインド」として定義，そこに必要となる「自主創造」を実現するための 8 つの能力を明示しています。「日本大学教育憲章」は，皆さんにとっては目標であり，身に付けてほしい力である一方，日本大学が皆さんに提供する教育の約束でもあります。ここで示す力を皆さんが学修によって身に付けられるように，全学・学部・学科単位で毎年カリキュラムや授業の改善*を図っています。よりよい学修のために，共に歩みましょう。

授業の改善

日本大学では，教育内容・方法などをはじめとする研究や改善活動を大学全体として組織的に行うFD（Faculty Development）に積極的に取り組んでいる。教職員を中心とした活動のほか，学生視点で大学教育について話し合う場「日本大学 学生 FD CHAmmiT（P.51）」も開催し，活性化を図っている。

■ 日本大学教育憲章 概念図

日本大学マインド

◆ **日本の特質を理解し伝える力**
日本文化に基づく日本人の気質，感性及び価値観を身につけ，その特質を自ら発信することができる

◆ **多様な価値を受容し，自己の立場・役割を認識する力**
異文化及び異分野の多様な価値を受容し，地域社会，日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し，説明することができる

◆ **社会に貢献する姿勢**
社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる

自主創造

自ら学ぶ

1 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観
豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる

2 世界の現状を理解し，説明する力
世界情勢を理解し，国際社会が直面している問題を説明することができる

自ら考える

3 論理的・批判的思考力
得られる情報を基に論理的な思考，批判的な思考をすることができる

4 問題発見・解決力
事象を注意深く観察して問題を発見し，解決策を提案することができる

自ら道をひらく

5 挑戦力
あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる

6 コミュニケーション力
他者の意見を聴いて理解し，自分の考えを伝えることができる

7 リーダーシップ・協働力
集団のなかで連携しながら，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる

8 省察力
謙虚に自己を見つめ，振り返りを通じて自己を高めることができる

3つのマインドを実現するための
8つの能力

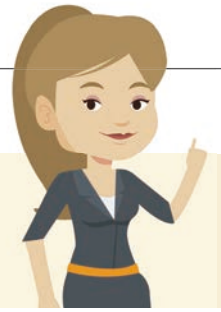
自主創造を支える
3つの構成要素

社会で活きる学びのために

1 日本大学の授業科目は，知識とそれを活用する能力を組み合わせた形式が基本！

1 科目の中で，講義とグループワークを代表とした体験型学修を組み合わせた授業を展開。

各科目の授業は，「知識」を活用するための「能力形成」を踏まえて設計されています



単なる表面的な知識ではなく，生きた知識とそれを活用する能力を，日ごろの授業を通じて自然に身に付けていくのが日本大学の教育です。

授業の成長ポイント 1　1 科目の中で，実践的な能力も磨かれていく

●一般的な科目の授業は…

科目 A　講義型授業（知識重視）

科目 B　グループワークなどの体験型授業

知識を得る科目と，能力開発の科目と，意識して両方履修しなければならない…

●日本大学の授業だと…

科目 A

科目 B

履修する科目ごとに，知識とそれを活用する能力が同時に身に付き，蓄積される！

授業の成長ポイント 2　知識と知識をつなげる，「知識を運用する力」が育つ

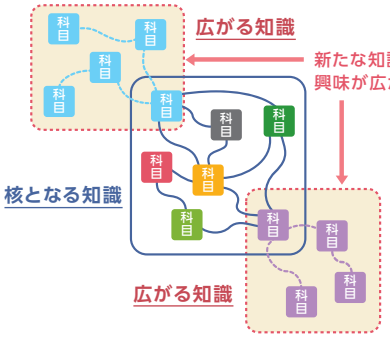
一般的な講義型授業（知識重視）では，科目で得た知識が孤立しがち…

グループワークを代表とした体験型授業を組み込んだ授業（知識を活用する能力を重視）

「体験型」の授業形態では，活発な意見交換などによる「知識を活用する能力」獲得によって，知識が「定着」し，しかも科目間の知識がつながる。

➡ 知識を「運用する力」も身に付く！

授業の成長ポイント 3　知識を「自分のものにする」ための学びにできる！



この繰り返しが，学びを無限に広げる!

関心を広げてみると学びがおもしろい。次に学びたいこと，学ぶべきことなど「学びのキーワード」が見つかる。

➡ あなたオリジナルの学びが実現可能！

2 日本大学の学びの流れと全体像

“学び方”を学ぶ

“学ぶ意義”を学ぶ

▼

全学共通教育科目

自主創造の基礎

大学での学修方法などを修得する
➡ 高校と大学の学びの違いを認識する。能動的な学びへの転換を図る。

＋

日本を考える

大学で学ぶ意義を明確にする
➡ なぜ大学で教養や専門の学問を学修するのかを知る。

▼

専門分野を取り巻く事象を学ぶ

自らの専門分野を学ぶ

教養教育科目

一般教育科目・総合教育科目　｜　外国語・保健体育科目

世の中に関するあらゆる知識・価値観などの教養を学ぶ
➡ 教養を深めるとともに，自らの専門分野の学びに深みをもたらします。

専門教育科目

所属する学科の専門分野に関する知識・技能・態度を学ぶ
➡ 教養との関連を踏まえて学ぶことによって，真に社会に役立つ学問を修得することができます。

※学部・学科により，一般教育科目・専門教育科目などの名称が異なる場合があります。

▼

大学での学びをまとめる

卒業論文・卒業研究など

世の中の総体を捉え，専門分野の学びをまとめる
➡ 卒業の認定に関する方針（P.21 参照）に掲げられた知識・能力などが包括的に身に付きます。

▼

卒業

学位授与

▼

社会に学びを活かす

3 授業から様々な視点を得て，もっとアクティブに学ぼう！

日本大学では，

全学共通教育科目「自主創造の基礎」（ワールド・カフェ）

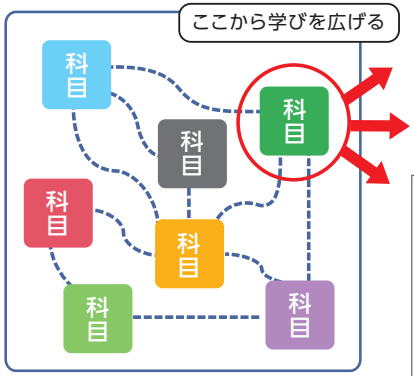
全学共通教育科目「日本を考える」

専門教育科目

教養教育科目
一般教育科目・総合教育科目　外国語・保健体育科目

などの基礎的知識・能力を培う科目を用意

学びの基盤となる知識群



- 相互履修制度
- 教養教育科目（一般教育科目・総合教育科目）
- 専門教育科目

＋

さらに，活動域を広げる

- 課外活動
  - 自主創造プロジェクト
  - 日本大学 学生 FD CHAmmiT
  - 海外留学
  - インターンシップ
  - 地域貢献活動

➡ P.49 ～ 52 で詳しく

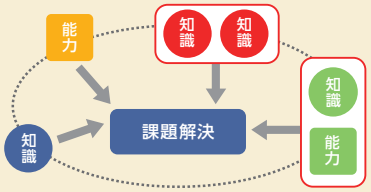
全学共通教育科目や各学部の教養教育科目で“学びのキーワード”を見つけ，自ら学びの世界を広げていこう！

日本大学の授業は，「社会で活きるチカラ」を育てる

❖ 社会の課題に向き合う，使える知識と能力

学問は，自然，社会や人が生きる暮らしから生まれたものであり，大学での学びはすでに社会に直結しているのです。しかしながら，社会に出ると大学で学ぶよりもさらに複雑で，正解のない課題があふれています。ですから幅広い知識・能力，または体系化された知識・能力をフルに活用して，課題に向き合うことが求められます。

そのため，日本大学では“社会で使える知識・能力”を身に付けられるように，授業を実施しています。



私の記録 01

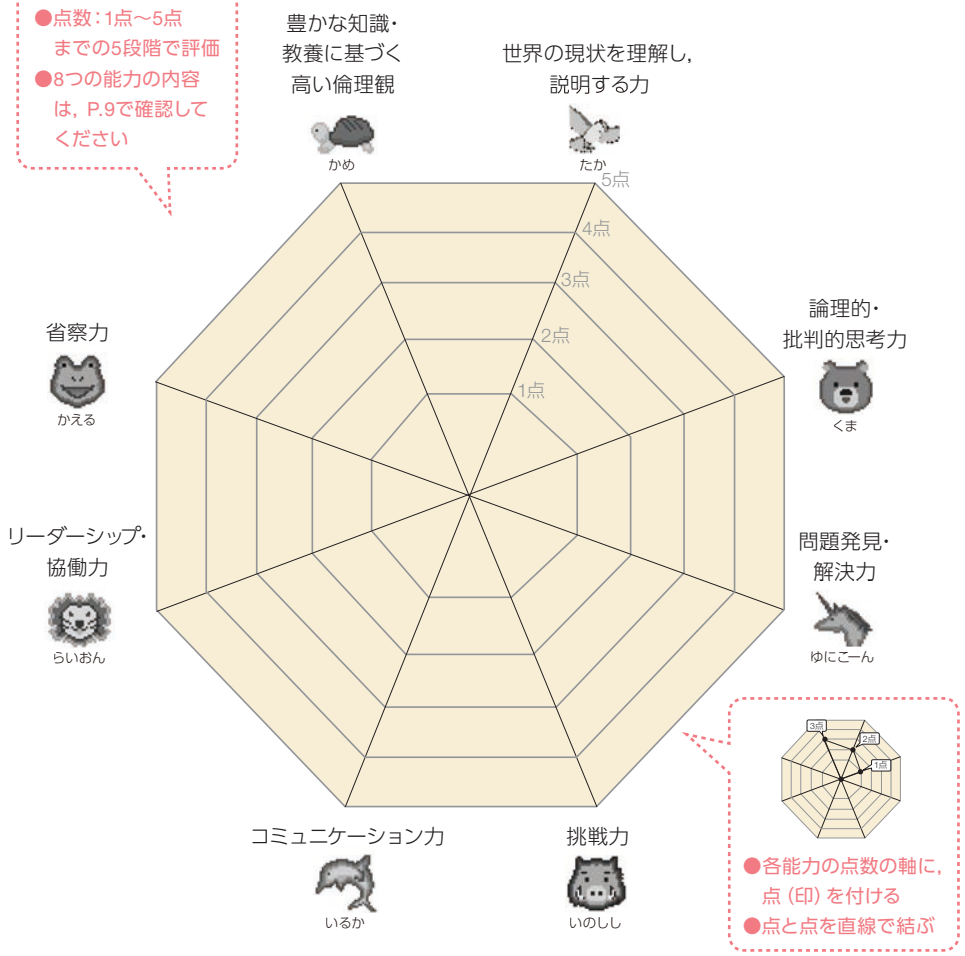
能力診断チャートで，あなたの8つの能力を確認してみよう！

今のあなたの８つの能力は何点？ 進級などのタイミングで，再チェックすれば，あなたの努力や学びの成果が目に見える！

8つの能力	1回目（入学時）の点数	2回目の点数	3回目の点数	4回目の点数
豊かな知識・教養に基づく高い倫理観（かめ）	／5	／5	／5	／5
世界の現状を理解し，説明する力（たか）	／5	／5	／5	／5
論理的・批判的思考力（くま）	／5	／5	／5	／5
問題発見・解決力（ゆにこーん）	／5	／5	／5	／5
挑戦力（いのしし）	／5	／5	／5	／5
コミュニケーション力（いるか）	／5	／5	／5	／5
リーダーシップ・協働力（らいおん）	／5	／5	／5	／5
省察力（かえる）	／5	／5	／5	／5

自分の得意なところ，苦手なところ，伸ばしたいところを知る上でグラフ化してみよう！

●点数：1点～5点までの5段階で評価
●8つの能力の内容は，P.9で確認してください



左表のチェックした回ごとの点数を，上の能力診断チャートに書き写してみよう！
筆記具の色や点（印）の形を★，■，◇などに変えて書き込めば，チェックを重ねて伸びたあなたの能力が一目瞭然！

※この能力診断チャートは，「日本大学 学生FD CHAmmiT2018」で考案されたものをヒントに作成しています。動物は，各能力を感覚的に捉え，あてはめたもの。これも学生のアイデアです。

「自主創造」できる人を目指して，目標を書いてみよう

P.14，15 を踏まえて，8 つの能力のうち高い能力，低い能力を挙げてみよう（複数可）
それはなぜなのか，自分自身で理由を分析してみよう

授業形式の特徴を理解しよう

大学にはいろいろな授業形式がある

形式	クラス	特徴
1 講義*	少人数～大人数	教員が教壇に立って，専門的な理論や学説などを話す。
2 演習（ゼミナール）	少人数	課題や研究テーマについて各自調べてまとめたことを発表し，それらについてみんなで議論する。3・4 年次になると，この形式が多くなる。
3 実験・実習・実技	少人数	講義などで学んだ理論や技術を，実地で行ったり，仮説の検証のために調査や実験をしたりする授業のこと。実施後は成果をレポートや作品として提出する。

講義のスタイル
講義の進め方は教員によって様々。板書をする教員，レジュメ（研究報告や講義の概論などを手短にまとめたもの）を配付して板書をしない教員，画像や資料を投影して授業を行う教員もいる。講義のスタイルに応じて，授業の受け方やノートの取り方を工夫する必要がある。最近では，講義科目においても一部にワークを取り入れるなど，知識定着を深めるためにアクティブ・ラーニングを取り入れている。

1 講義

❖ 講義に臨む姿勢

高校までの授業と違い，大学の講義は教員が研究・専門とする分野の様々な理論や学説*などを解説することが中心です。そこでは，教員自身の研究成果や新しい学説も聞くことができます。

つまり講義は，板書を写して“覚える”ものではありません。古くからの学説と新しい学説の論旨を自分なりに分析し，その後は自分自身の研究テーマを見つけていくためのものです。考えをめぐらせながら，講義をしっかり聞くことによって，自らの頭で考え，自らの言葉で発言し，自らが物事を判断する基礎となる知識が身に付きます。

学説
学問分野において，研究者が主張する考え方。

❖ 欠席は命取り

どの授業も「出席」が前提条件。高校までの授業と違い，教科書どおりに進むわけではありません。教員は，講義の内容を15週*のストーリーで組み立てています。1回（1コマ*）休めば，以降の授業はわからないまま，半期が終わってしまいかねません。授業に取り組む基本的な姿勢として，授業開始時刻に遅刻しないことも重要です。教員や他の学生に迷惑がかかるばかりか，欠席したのと同じように十分な学修効果が見込めなくなってしまいます。

15週
半期の授業は15回を標準に設計されている。週1回の授業を15回（週）行う形式が多い。

1コマ
授業の数え方の単位。90分・1授業を1コマという。

❖ 予習・復習も単位修得の条件

大学の授業は，1単位を「45時間の学修を必要とする内容」と定められています。この時間には，大学での授業のほかに予習・復習の時間も含まれています。つまり，「大学生は自主的に学ぶもの」とみなされているわけです。課外活動や個人の予定も大事ですが，学修を中心とした無理のない履修計画を心掛けましょう。

➡ 単位修得に必要な学修時間については，P.39で詳しく

2 演習（ゼミナール）

❖ ゼミナールとは

「演習（ゼミナール）」は，「ゼミ」と略して呼ばれます。学生が特定のテーマについて研究し，発表や討論を通じて，主体的に学び，研究する姿勢を養う授業形式です。自分の研究発表だけでなく，ほかの学生の研究発表も聞き，質問や討論もするので，論理的に考えることや自分に関心のあるテーマ以外の知識も必要になります。それだけあなたの成長にもつながり，様々な学問的刺激を受けることでしょう。

❖ ゼミでの学び方

ゼミは，学生の主体性が尊重され，教員は多くの場合進行役や助言役を務めます。また少人数規模で行われるので，発言しやすい場です。教員から直接アドバイスや指導を受けられる機会でもあり，他の受講生とより深い交流*ができるのも大きな特色です。発表（特にパソコンを使ったプレゼンテーション）の仕方や討議の方法もゼミを通じて身に付けてください。

➡ プレゼンテーションの仕方については，P.70で詳しく

他の受講生とより深い交流
ゼミは少人数単位で行われているため，教員と学生，学生間での親交が深まりやすい。また学年の違う学生（先輩・後輩）も参加しているので，学内の交友関係が広がる機会でもある。

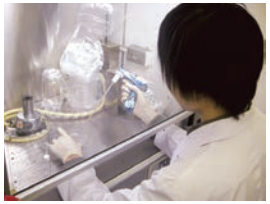
3 実験・実習・実技

❖ 実験・実習・実技に取り組む姿勢

実験・実習・実技は，学生が講義などで学んだことを実践して，方法や技術を身に付けるための科目です。

特に実験・実習では，装置や機器の使用法の習熟とともに，分析・測定データがあらかじめ設定した仮説に照らして正しいかどうか，検証する狙いもあります。そのためこれまでの授業をしっかり理解し，当日は何をやるのか予習しておくことが必要です。

実習の授業風景


実験の授業風景

❖ グループ行動の意識

グループ単位で行われることも多くあります。グループの一員として役割を分担し，協力し合うことが重要です。

❖ 実施後はすぐレポート！

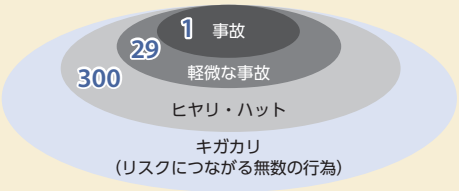
実施後は，その日のうちに学んだ内容をレポートにまとめましょう。記憶が薄れてからでは，書けなくなってしまいます。予習→授業→レポートのクセ付けが大事です。

安全確認と安全対策の意識を忘れないで！

実験・実習・実技において，絶対に忘れてはならないのが，安全の確保です。「ハインリッヒ*の法則」では，1 件の重大な事故や災害の背後に，29 件の比較的軽微な事故・災害，さらに 300 件のヒヤリ・ハット*が潜んでいるといいます。つまり，重大な事故や災害を未然に防ぐには，「キガカリ」の段階（下図参照）で対処しておくことが重要です。

指導教員や TA *，SA *の説明と指導には十分に耳を傾け，常に細心の注意を払いましょう。

■ ハインリッヒの法則



【実験・実習の安全対策】

- 体調管理：体調不良や寝不足は事故の要因に
- 服装：実験では白衣，必要に応じて実験用保護メガネ・手袋などを着用
- 野外実習：雨，日差し，虫よけなどの対策，調査にふさわしい靴の着用。天候変動への注意

ハインリッヒ
Herbert William Heinrich（1886-1962 年）
アメリカの数学者。損害保険会社の技術・調査部で安全技師を務めた。労働災害の発生確率を統計的に解析し，1929 年に発表した論文で経験則「ハインリッヒの法則」を提唱した。

ヒヤリ・ハット
幸い事故には至らなかったものの，一瞬ヒヤリとしたりハッとしたケースのこと。

TA ＝ティーチング・アシスタント
科目担当教員の指示により，学部の実験・実習等の教育補助を行う業務の総称，もしくはその担い手である大学院学生。

SA ＝スチューデント・アシスタント
学部学生が，コンピュータ科目や実験・実習・実技科目などのほか，多人数授業の補助，受講に際しての留学生への対応や，ハンディのある受講生などへの学習補佐を行う。

何を学ぶか，何の科目を選ぶかは，あなた次第

受ける授業と時間割は，自分が決める

❖ 学びの目的・方向を決めて，バランスよく学ぼう

科目には，教養教育科目と専門教育科目の分類があり，さらに必ず単位*を修得しなければならない必修科目，選択受講する科目などの規定があります。学修成果を保証する卒業の認定に関する方針*に基づいて，こうした科目が体系的に設けられています。その中で，どの科目を履修*するかは自分で組み立てます。それには，どのような知識やスキルを身に付けたいのか，あなた自身が学びの目的と方向性を明確にしなければなりません。様々な授業形式を取り入れることはもちろんのこと，他領域へも関心を広げて知識を連結させていくような履修を心掛けましょう。

❖ 受ける授業は自分で「履修登録」

年度（学期）の始めに，各学部のウェブ登録画面などで履修したい科目を選択・登録します。学部で定めた単位数を規定の年次に修得するルールや，学期・学年単位で履修登録できる単位数の上限（CAP 制）などもありますので，最初にルールを十分確認するようにしましょう。

❖ シラバス*を活用しよう！

履修科目を選ぶ際は，学部のホームページなどに掲載しているシラバスを参照しましょう。シラバスでは，授業科目名，教員名，授業のテーマ，目的・到達目標，各回の授業内容や予習・復習などが確認できます。また成績の評価基準や方法も記載されています。プリントアウトして保管したり，情報端末に取り込んだりしておくと便利です。

➡ 履修登録方法とシラバスの活用法は P.33 以降で詳しく

単位
大学における学修量を測るために数値化した一定の基準。授業を受け，試験などで一定以上の成績を修めると修得できる。

卒業の認定に関する方針
所定の単位を修得するとともに，学修によって学生が卒業時に身に付けているべき資質や能力を明示したもので，ディプロマ・ポリシー（DP）という。自らの所属する学部のディプロマ・ポリシーを一度ホームページなどで確認しておくこと。

履修
単位を修得するために授業を受けて，知識・技術などを学ぶこと。

シラバス（Syllabus）
科目ごとに授業の概要や各回の授業計画を示したもの。

高校とは違う，大学ならではの学修方法と必要なスキル

1 ノートのつくり方

❖「板書を写す」よりも，「理解する」ノートに

中学・高校と違って，教員はノートに取るべき内容を細かく指示しません。しかし講義では様々な理論や学説などが解説されます。つまり教員が話すことを書き取ることも大切。講義の要点を自ら考え，重要なキーワードを逃さずノートに書いていきましょう*。

そのノートは，復習にも役立ちますし，試験やレポートの提出時などには授業を振り返るために不可欠なものになります。講義内容をしっかり理解できるようなノートの取り方が重要。自分なりに工夫してみましょう。

❖「ノートに書く」ことに気を取られてはダメ

「ノートに書く」行為に気を取られすぎると，教員の話が頭に入ってきません。その場で理解できたことはキーワードを書き留め，調べればわかることは書き込めるスペースを空けておくなどして，授業後に復習を兼ねて，ノートを完成させるようにしましょう。

❖ 試験やその後の学びに役立つノートづくりを意識

大学の講義は教科書に沿って行われるわけではありません。したがってノートが講義内容を振り返る一番の資料であるともいえます。定期試験*では，「ノートの持ち込み可」という場合もあります。それはノートに書いたキーとなる知識を基に考え方を問われたり，論ずる際に重要なヒントになったりするからです。知識だけのメモにせず，発想を豊かにするヒントをノートに記録することを心掛ければ，後の卒業論文・卒業研究，ひいては卒業後においても生かせる貴重な財産となるはずです。

教員がプリントを配る場合は

教員がプリントを配付し，授業を進める場合は，プリントに書き込み，ノート代わりにするのがよい。

定期試験

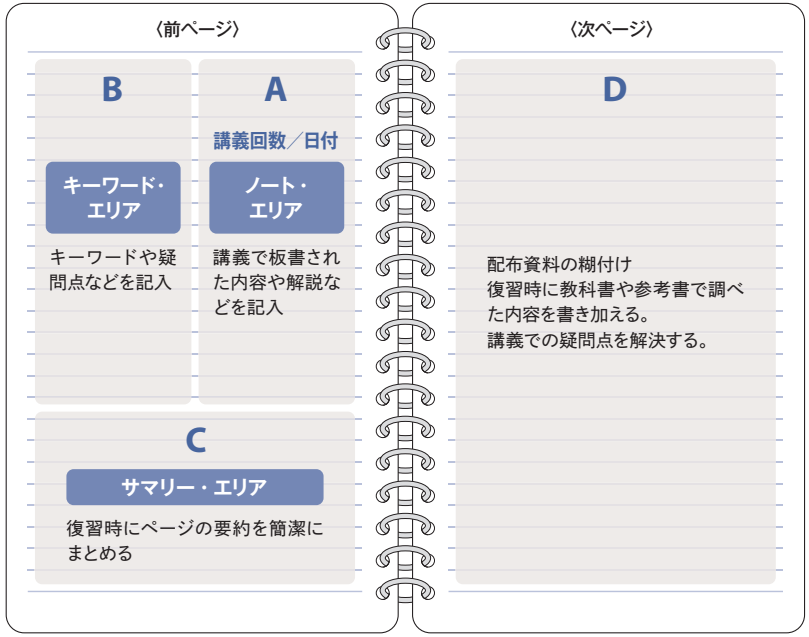
学期の最後に行う試験。進捗や理解度のチェックやフィードバックを目的とする試験とは異なり，科目合格判定を主目的とする総合的な試験のこと。

❖ 良いノートをつくる方法

良いノートをつくるための方法を一つ紹介します。授業中にはノートの上半分（または左ページ）だけを使い，下半分（または右ページ）には，後で整理し，まとめたものを記載するようにします。また，疑問点が出てきた場合には，後で教員に質問できるよう，そこにメモしておきます。

ノートの完成は，記憶が鮮明なその日のうちに済ませておくことがベストです。こうしておけば，復習にもなり，講義内容が整理された良いノートが残せるようになります。

■ ノートのレイアウト例（コーネルメソッド参考）



出典／佐渡友 哲・編著2011,『大学入門―政治と経済を学ぶマナーとスキル』北樹出版

2 論文とレポートの作成

❖ 論文とレポートの違い

大学の学びでは，論文*やレポートを書くことが必ず求められます。

レポートは，授業の課題として教員からテーマが与えられ，そのテーマについて調べた内容をまとめ，その結果から自分の考えを述べます。一方，論文は自らテーマを設定し，そのテーマの先行研究*を掘り下げ，新しい発見や理論を提示します。簡単にいうと，レポートは既知の事実をまとめたもの，論文は自分で獲得した情報を報告し，自らの理論を立てるものといえます。

	レポート	論文
※目安量	A4・2～4ページ程度 (1,000～5,000文字程度)	A4・20～40ページ程度 (30,000～60,000文字程度)

※ページ数や文字数は，学問分野により大きく異なることがあります。

❖ 論文・レポートを書くための情報収集

論文やレポートは，必ず先人の研究成果（先行研究）を参照した上で，自身の学修・研究内容を上乗せすることが原則です。先行研究やデータを調べるためには，大学図書館を利用して，書籍や論文，雑誌などの資料を読むのが良いでしょう。携帯端末からでも書籍や論文を検索し，読めるようにもなっています。

また，PCスキルや注釈・参考文献の挿入方法など「書き方」も身に付けていく必要があります。

❖ 適切な引用のしかた

大学図書館の文献やインターネット上の資料を活用する時は，守らなければならないルールがあります。論文やレポート作成の中で，文献や資料から調べた部分と文献や資料を基に自分で考察した部分は，明確に区別し，明示する必要があります。

論文

多くの学生に該当するのは卒業論文。ただし，論文ではなく「卒業制作」や「卒業研究」が卒業要件の学部もある。大学院に進学すると，修士課程・博士課程でも論文執筆がある。

先行研究

自分が論文を書こうとしている研究分野で，既に発表されている学術研究を指す。

❖ やらなければならないこと

①引用

引用する際は，他人の文章であることを明示するために引用部分をかぎかっこ（「 」），英語の場合は引用符（“ ”）で示したり，行間を空けたりして，自分が作成している文章と，引用する他人の文章を，明瞭に区別することが必要です。また，文章全体に占める分量・割合が，他人の文章が主体になってしまってはいけません。あくまで自分の作成文章が主，引用する他人の文章が従たる関係にあることも必要です（主従関係）。

②要約（言い換え）

文章や事例をそのまま引用はせず，内容を要約する場合や表現方法を変えて説明する場合には，引用のようにかぎかっこや行間を空けて示すことは必ずしも必要ありませんが，利用する他人の著作物の趣旨に忠実に要約し，出典部分を明らかにする必要があります。

③出典の明示

引用や要約を行った部分は，出典・典拠*を明示することがルールです。明示の方法は複数ありますが，本文中に通し番号の注釈を付し，本文の末尾でその番号に対応する文献や資料の情報を記載するのが一般的です。

●書籍や雑誌などの場合

著者名，書名・雑誌名および号数，該当ページ，出版年，出版社などを記載する。

例：日本太郎（2019年）『ミライヲツクル』▲▲出版

●ウェブサイトの場合

著者名，タイトル，アドレス（URL），アクセス日などを記載する。

これらの明示する内容は一例です。学問分野や文献などの種類によって記載方法や内容が異なる場合もあります。不明な点がある場合には，授業担当教員に確認してください。

出典・典拠

出典は，故事や引用句・引用文の出どころである書物のこと。典拠は，信頼できる根拠となる文献を意味します。どちらも「元となる書物」を指すことには変わりなく，依拠する文献の「出どころ」を明示すべき法的な義務があります。

❖ 注意しなければいけないこと

①原典*の確認

文献や資料が参照している典拠を自分で確認せずに用いることを「孫引き」といいます。この孫引きは，引用から引用をするため，原典と異なってしまう可能性や，元の引用や要約が誤っている可能性もあるため，できるだけ避けるべきであり，可能な限り，自分で原典を確認してください。

ただし，原典を入手することが難しいなど，やむを得ず孫引きする場合は，信頼のできる資料であることを十分確認してください。

②ウェブサイトからの引用

インターネット上の情報やデータを活用する際に出典の典拠が曖昧である場合や正確性を欠く情報が含まれている場合がありますので，引用などを行う場合には十分に確認して行ってください。

ウェブ上のいわゆるコピーレフトの文書など，執筆者が匿名で文書作成責任者の明示のない文書の引用も同様に注意が必要です。

③剽窃

P.25「やらなければならないこと」に記載のルールを守らずに，他人が書いた文章や研究の成果をあたかも自分が書いたものとしたり，自分の成果とすることを剽窃といいます。このようにルールを守らず，他人の文章を適切に示さずに使用すると，学内で不正行為とみなされるだけでなく，法に抵触することにもなりかねないため絶対にしてはいけません。何よりあなたの「考える力」「書く力」の成長になりません！

原典

もとになる書物，文献のこと。原書や原本。

論文とレポートの書き方

共通する書き方のポイント

指定された書式や体裁を守って作成する

- 「○○○字程度」「原稿用紙○枚程度」などの文字量を守る。
- 「縦書き／横書き」「表紙を付ける（付けない）」「ホチキスで留める」などの書式や体裁などが事前に示されるので，指定された条件を守って作成する。

客観的，論理的な文章表現

事実や論拠を伝える目的の文章なので，「～です」「～ます」などの話し言葉は使わない。「だ」「～である」調で統一する。

基本的な構成は，「序論」「本論」「結論」の３部構成

序論	本論	結論
「どのような問題に対し，どのような結論に至ったか」ということを記す。ここを読めば，筆者が何を考え，何を主張しているのかがわかるようにする。	自分の主張に沿って証拠を積み上げていく部分。先行研究を踏まえて，自分で調べた資料や，調査結果，参考文献などで構成する。	積み上げた証拠から，結論をまとめる。論文の場合は，自説の論証をする。

先行研究を踏まえる

必ず先人の研究成果（先行研究）を参照した上で，自分の研究・調査など客観的な事実を根拠にして，主張や理論を展開する。

参考文献リストを付ける

書き方は，P.25「出典の明示」，P.73「引用したい文献の表示方法」を参照。

提出時のマナー（提出前にチェックしよう）

- 名前，学生番号，所属，授業科目名などは書かれているか？
- 提出期限，提出方法は守れているか？
- 手元に保管するために，コピーやデータのバックアップはしたか？
- 誤字，脱字などはないか？
- ページ番号は入っているか？
- ホチキスで留めたか？

3 オンライン授業（遠隔授業）

❖ オンライン授業受講の心構え

オンライン授業の準備

まず，オンライン授業を受けるための静かな部屋を確保し，部屋のインターネット環境を整えましょう。アプリ（Zoom など）を使用する際は，あらかじめ最新版に更新をしておくと，スムーズに授業を受けることができます。また，事前に授業資料が提示されている場合は，必要に応じて授業資料を印刷しておくと，資料に書き込みながら授業を受けることができます。

オンライン授業を受ける

同時双方向型（P.29 参照）の場合は，授業の開始時間を守って受講しましょう。マイクやカメラの ON/OFF*は，授業のルールに従ってください。オンデマンド型（P.29 参照）の授業の場合は，繰り返し視聴することができます。難しい授業は，繰り返し視聴して理解を深めてください。なお，配信された動画や資料を外部に流出させることは禁止です。

積極性を持って臨もう

オンライン授業では対面の授業に比べて，質問をしにくく感じるかもしれません。また，学生間のディスカッションの機会も限られるため，受け身になりがちです。しかし大学の授業において，積極的に自ら学ぶ姿勢は最も重要です。疑問に思うことがあれば，授業中や授業後に積極的に質問をしましょう。質問方法については，シラバスのオフィスアワー等も参照してください。また，予習と復習も重要です。ただ，授業に参加する，授業を聞くだけではなく，積極的に授業や学習に取り組めば，オンライン授業でも深い学びが実現できます。

マイクやカメラの ON/OFF

大勢が参加する授業の場合，通信状態の低下を防ぐため，OFF での参加を求められることがありますが，同時双方向型の機能を生かした授業を実現するため，ON での参加を求められることもあります。ON の時に注意したいのは，自身の顔だけでなく，授業を受けている場所も映ることです。他者に見られては困るようなプライベートなもの，他者を不快にさせるものが映りこまないように心がけましょう。

❖ オンライン授業の形式

オンライン授業には次のような形式があります。

①同時双方向型

Zoom や Google Meet などを利用してリアルタイムで授業を配信する形式です。

②オンデマンド型

インターネット上に授業資料や講義動画を配信し，定められた期間内に受講する形式です。

③ハイブリッド型

対面授業とオンライン授業を組み合わせることにより効果的に授業を配信する形式です。主に 3 つのパターンがあります。

ハイフレックス型	同じ内容の授業を対面または同時双方向型のいずれかを学生が選択して受講する形式
ブレンド型	授業目的に応じて授業回ごとに対面と同時双方向型またはオンデマンド型を組み合わせる授業方法
分散型	同じ回に異なる内容の授業を対面と同時双方向型またはオンデマンド型で行い，学生は分散して受講する授業方法

❖ オンラインツールの種類

オンライン授業では次のようなオンラインツールを使用しながら授業を進めます。使ったことがないオンラインツールは，自分で使い方を調べたりして使いこなせるようにしましょう。

Zoom・Google Meet	遠隔地にいる学生と教員をつなぐことができるオンラインコミュニケーションツール。P C，スマートフォン，タブレットなどの情報端末を用いてリアルタイムに双方向のコミュニケーションを行うことができるため，Zoomなどのツールでオンライン授業は行われています。
Google Classroom	Google 社が提供する学修支援システム。授業ごとに「CLASS」が作成され，教員への連絡，教材のダウンロード，アンケートの回答，課題の提出などを行うことができます。

☆「新入生のための Zoom 特別セミナー」を令和 4 年 4 月に開催しましたので，オンライン授業受講前にはぜひご覧ください。

「新入生のためのZoom特別セミナー」動画URL

Google ドライブ	データを格納するためにインターネット上に設置されたスペース（クラウドストレージ）で，学生と教員間でデータを共有する場合などに利用します。
Google Jamboard	他のユーザーと共同編集が可能な電子ホワイトボードツール。クラウドベースであるため，同じ Jamboard に同時にアクセスすると，リアルタイムで内容の共有ができます。また，ホワイトボードへ手書きの記入，付箋の貼付，画像の差し込みなどができ，グループワークの時に有効活用できます。

※ Jamboard は 2024 年 12 月 31 日までに段階的に終了予定。

❖ オンライン授業のマナー

オンライン授業のなかで，配布された資料や，配信された音声や動画（スクリーンショットで撮影した画像も含みます）は，許可なく以下のようなことはしてはいけません。

- 欠席した友人に資料をコピーして渡すこと
- X（旧 Twitter）などのSNSに投稿すること
- 録画や録音した講義を友人間で上映をすること

また，他にも，このようなことに注意する必要があります。

- オンライン授業へのアクセス方法（ZoomなどのURL等）を他人に教えてはいけません。
- 他の履修者の画像などを公開してはいけません。
- 授業と関係のない発言をしたり，関係のない音声を発してはいけません。
- 友人のアカウントを利用して，代わりに出席することや，代わりに課題を提出することはしてはいけません。

このような行為は，不正行為とみなされるだけでなく，法律違反となる場合もありますので，絶対にしないようにしましょう。

押さえておこう！ 大学のサポート

大学のサポートを上手に利用！ 大学生活のリズムをつかもう

❖ 新入生にとって，「大学の学び」は誰もが初めて

「大学の学び方に慣れるだろうか…」「ついていけるだろうか…」。入学したばかりは誰もが不安に思うこと。しかし，そんな心配はいりません。日本大学では，全学共通初年次教育科目「自主創造の基礎」を通じて，「大学での学び方」を身に付けることができます。また，専門分野を学ぶには，高校までの基礎的学力が必要ですが，リメディアル教育*を通じて振り返りや学び直しをサポートしています。多くの学生が専門的な授業にもスムーズに移行できるようになっています。

その他学修への不安は何でも，教員や各種窓口に相談できますので，大学のしくみをもっと利用して，思いっきり大学生活を満喫する気持ちで前向きにいきましょう。

リメディアル教育
高校までの学習内容に関する補習教育。大学教育を受けるために必要となる基礎的な知識を学ぶ。

❖ 授業や大学生活に戸惑ったら

学部によっては独自に学修支援センターなどを設け，基礎学力の向上をバックアップしています。また学生支援室には，インテーカー*や相談員が待機していて，心の不安，将来の悩みなど何でも相談できる場所もあります。

☛ 学修支援センター，学生支援室の利用については，各学部のホームページを確認してください。

インテーカー
受理面接者。相談者に会って内容を把握し，最適な相談先や機関を紹介する。聴く技術，把握する知識があり，良い関係づくりができる人。

❖ 身近な教員と話してみよう〜オフィスアワー〜

日本大学は，多くの学部で担任制に類する取組を行っています。教員はあなたの授業への出席率や取り組み方についても，他の教員と情報連携して，あなたを見守っています。履修する科目の教員と話したい，気になる教員と話したい，という場合は，オフィスアワー*が利用できます。担当する科目への質問や予習・復習の相談，種々の相談に応じていますので，気軽に相談してください。

オフィスアワー
教員が主に研究室に在室し，学生の質問や相談に応じる時間帯。

❖「大学の雰囲気や学部の学びが自分に合わない」と悩むときは

第一希望だった学部や学科に入学できず前向きになれない，想像していたこととギャップを感じる学生もいるでしょう。悩んでいたり，違う勉強をしてみたいと感じたら，教務課・教学サポート課の職員や教員にまずは相談してください。熟考の上で，転部や転科をすることも可能です。

なお，転部情報については，日本大学入試ガイドのホームページからご覧いただけます。日本大学ホームページの「入試情報」からご確認ください。

教員からのメッセージ

質問は何でもウェルカム！

学生の皆さんの中には，教員との距離を感じる人も多いのではないでしょうか。特に１年生はなかなか教員へ質問ができないのではないでしょうか。しかし教員は誰でも，学生からの質問は嬉しいものです。ですからわからないこと，もっと詳しく知りたいことがあれば，皆さんからどんどん質問してください。質問は何でもウェルカムです。さあ，学問を通じて知的な冒険に出かけよう。

履修とシラバス

1 履修の注意点

履修登録とは，学期（年度）の始めに，各学部で定められた方法にしたがって，履修したい科目を自分自身で選択し，申請することをいいます。ウェブで登録する方法が多いですが，所定の期間内にしなければならないので忘れないように注意しましょう。履修する科目には，卒業までに必ず修得しなければならない必修科目，自分自身で選ぶ選択必修科目，選択科目などがありますが，履修できる学年が決まっていたり，先修条件*があったりと，履修条件が付いていることもありますので，ガイダンスなどでの説明やシラバスを活用して，登録を行うようにしましょう。

先修条件
体系的な学修のための条件。例えば，上級学年のより専門的な配当科目を履修する場合に，その基礎的または教養的な科目を下級学年で履修しておくことで，当該科目の学修を効果的に深く行うことができる。

■ 履修登録のポイント

1	科目の内容はシラバスで確認	受けたい授業の内容は，シラバスで確認する。
2	必修科目は履修年次に必ず履修する	授業科目は，教育活動の成果として保証する卒業の認定に関する方針（DP）を踏まえ，体系的に設けられており，その核となる必修科目は，他の科目を学ぶ上でも何年次に履修すべきか決められている。
3	学びの目的・方向を自分自身で定め，バランスよく履修する	卒業要件では，学科別専門教育科目以外の教養教育科目（一般教育科目・総合教育科目，外国語科目，保健体育科目など）を履修する必要がある。また他学部の科目も履修することができる。これらは，専門分野以外の視点や気づきを得る有用な機会でもある。トータルに自分の学びをデザインし，バランスよく履修しよう。
4	科目数，曜日は無理なく	関心を広げ，積極的に履修することは良いことではあるが，授業ごとに課題や予習・復習が課されるので，欲張りは禁物。また，履修登録単位の上限数が学部・学科で定められていることがあるので確認しましょう。科目数や曜日・時限を適切に配分し，無理のない学修計画を立てることも重要。

2 シラバスの活用

シラバス（Syllabus）は，授業の概要を理解するためのもので，学生の皆さんの学修を成功に導く役割を果たすため，必ず目を通しましょう。

まず自分が受講したい授業科目名と教員名を確認することが第一歩。シラバスは学期ごとに書かれ，多くは1学期で 15 週の授業計画が示されています。授業のテーマ，目的・到達目標を見ると，何をどこまで学ぶのかがわかります。あなたが今すぐに履修できる科目かどうか，条件も確認しましょう。

また，実際に履修した時のことをイメージして，各回の予習･復習についての指示と，成績評価や評価基準（試験，レポート，授業参画度など重視されるものなど）も確認しましょう。

■ シラバス記載項目

1. 科目の基本情報

- 授業科目名　● 担当教員名
- 開講学科・コース（必要に応じて記載）
- 対象学年・履修条件　● 期間（前期・後期・通年）
- 単位数　● 必修・選択の別
- 日本大学教育憲章との関係性
- ディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシーとの関係性

2. 授業内容

- 授業の概要　● 授業の目的・到達目標　● 授業の方法
- 授業時間外の学修（予習・復習など）
- 授業計画（半期15週それぞれの内容）
- 成績評価の方法及び基準

3. その他

- 教科書　● 参考書（参考ホームページも含む）
- 連絡先（オフィスアワー，e-mailなど）
- 教員の実務経験
- その他（履修上の注意，受講生に対する要望，TA・SA の有無など）

押さえておこう！ 大学のサポート

こうやって見るんだ!?
シラバスの見方について詳しく知ろう！

各学部のホームページ内にある「シラバス」ページを探します（学部ごとに，シラバスが掲載されている画面や構造は異なります）。ここでは，シラバスの見方について説明していきます。

■ シラバス検索画面

❶知りたい科目群を絞る

❷具体的な検索ワードがわかっている場合は，入力してさらに絞る

■ 科目一覧画面

❸知りたい科目をクリックして，詳細画面へ

❖ 履修トラブルに注意！

登録ミスについて

希望科目の履修登録を失敗してしまうと，授業に全て出席して試験を受けたとしても，単位を修得できなくなります。

【履修登録に失敗してしまったら?】所定の履修登録期間の他に，履修登録内容確認期間を設けるなどしていますので，そこで再度確認して，場合によっては再登録しましょう。

【やむを得ない理由で登録できなかったら?】所定の期間に履修登録ができなかったり，確認できなかったりする場合は，早めに教務課及び教学サポート課に相談しましょう。

【登録単位数の上限】学期中（年度内）に修得できる受講単位数の上限を設けている場合があります（CAP 制）。事前にルールを確認しておきましょう。

学年制

「学年制」とは，各学年での教育課程を修了し，進級・卒業する「学年進級制」を採る方式のことです。学年によって定められた科目の単位を修得し進級判定されなければ，進級できません。「学年進級制」は，卒業時に国家試験に合格・資格取得する必要のある医・歯・薬系の学部・学科が多く採用しており，日本大学では，医学部，歯学部，松戸歯学部，生物資源科学部（獣医学科）および薬学部が，この方式を採っています。詳しくは，各学部の『履修要覧』などを参照してください。

■ シラバス掲載情報の見方

科目区分：全学共通教育科目
科目コード：22RWCOM001
科 目 名：自主創造の基礎(First-Year Seminar)
単 位 数：2
開講年次：1年次前学期
履修方法：選択
授業区分：複合型
担当教員：◎ ○○ ○○. ○○ ○○. ○○ ○○. ○○ ○○. ○○ ○○

科目のキーワード	初年次教育, 日本大学, コミュニケーション, 情報倫理, インクルージョン, ディスカッション, 学部間交流, 論理的・批判的思考, プレゼンテーション
科目概要	様々な動機・目的をもって入学した新入生に対し、学部・学科に関わらず, 本学の学生として共通して身に付けるべき学修姿勢や修得すべきスタディ・スキルを習得することを目的とします。 **スタートアップ(第1週)**では, 本科目の意味・意義や位置付けを概観した上で, [日本大学教育憲章] のあらましと本科目との関連性, [学習] から [学修] への転換を図る必要性をはじめ, <日大生>として必要な学修のスキルや姿勢について学びます。 その後, 第2週から第14週では以下の3点をターゲットとして定め, それぞれの単元が有機的に連携しながら体系的な学修を進めていきます。 **–[TARGET1] 日大生としてのアイデンティティ(第2週～第5週)** さまざまな角度から日本大学, さらには所属する学部・学科を知る] ことで, 在学中の学びのイメージを描くことをねらいとします **–[TARGET2] コミュニケーションとインクルージョン(第6週～第9週)** ICT環境を含む多様なコミュニケーションの在り方やエチケットを理解した上で, 他者を尊重しながら積極的にグループワークに取り組む姿勢を修得することをねらいとします **–[TARGET3] 論理的・批判的思考とアウトプット(第10週～第14週)** 論理的かつ批判的に考えをまとめながらグループワークを行い、グループとして提示資料の作成や発表を行うことで, 説得力をもって他者へ伝える力を修得することをねらいとします 最後に, 本科目のまとめとして, **総括・振り返り(第15週)**では, 各TARGETの達成度を中心に省察を行い, あわせて後学期に向けた課題の設定を行います。 各授業では, 学生自身による自己評価と振り返りを行い, 各授業時の到達度の確認を行います。その到達状況を当該授業内で集計し, 本時のまとめとして受講者にフィードバックを行います。
一般目標 (GIO)	1 学部・学科に関わらず, 本学の学生として共通して身に付けるべき学修姿勢や修得すべきスタディ・スキルを身に付ける 2 多様な存在を認め, それぞれの価値観を尊重しながら他者と関わり合うことで, 自身の立ち位置を相対的に理解する 3 自ら設定した課題について論理的かつ批判的に検討を行いながら, 自身の考えを伝える力を身に付ける
個別行動目標 (SBOs)	本科目では, 各TARGETで学修目標を定めています。 **[TARGET1] 日大生としてのアイデンティティ** ■ 日本大学についてさまざまな角度から概観することで, 本学で学ぶ意味や意義について, 説明することができる ■ 所属学部・学科の特色を理解し, 在学中の目標設定し, 学びの意識を高めることができる **[TARGET2] コミュニケーションとインクルージョン** ■ さまざまなコミュニケーションの在り方や特徴を説明することができる ■ 自身の考えを適切に伝達することができる ■ 他者の意見に傾聴することができる ■ 多様な存在や価値観を受容し, 尊重しながら, 協働することができる **[TARGET3] 論理的・批判的思考とアウトプット** ■ グループまたは個人でテーマを設定することができる ■ 他者の意見を尊重しながら多角的かつ批判的に自身の考えを見直す伝えることができる ■ ワークでの検討結果を論理的に構成し, 他者へ説明することができる ■ 他者の提案物に対して, 自身の考えを示すことができる
日本大学教育憲章との関係性	本科目では, [日本大学教育憲章ルーブリック] における**[豊かな知識・教養に基づく高い倫理観]**[世界の現状を理解し, 説明する力△] **[論理的・批判的思考力]** [問題発見・解決力] [挑戦力] [コミュニケーション力] [リーダーシップ・協働力] [俊察力] の**初年課題: Basic 1**を修得します(△は, 選択する授業内容によって修得が可能となります)。
ディプロマ・ポリシー (DP) との関係性	本科目は, DP1, DP2△, DP3, DP4, DP5, DP6, DP7, DP8に該当する科目です。 (△は, 選択する授業内容によって対応します)
カリキュラム・ポリシー (CP) との関係性	本科目は, CP1, CP2△, CP3, CP4, CP5, CP6, CP7, CP8に該当する科目です。 (△は, 選択する授業内容によって対応します)

■ 授業計画

週数 (授業形態)	授　業　計　画
第1週 (対面)	**スタートアップ** **◆本科目の意味や意義, 位置づけについて要点をとらえることができる** **◆大学生としての学びの在り方について理解し, 説明することができる** [事前学修：2時間] ・学部要覧の履修方法や卒業要件に関するページを熟読します ・[ミライラボ/ルーブルーLearning Guide～] を熟読します [事後学修：2時間] ・大学生としての[学修] について, 理解を深めます ・[日本大学教育憲章] について, 理解を深めます ・履修中の科目及び履修予定の科目) のシラバスを読み, 各科目の目的や位置づけについて確認した上で, 適切に履修登録が行われているかを確認します
第2週 (対面)	**日本大学を知る①** **◆本学への入学動機について振り返ることができる** **◆本学の歴史や特色を理解し, 説明することができる** [事前学修：1時間] ・入学前に抱いていた本学のイメージや本学を受験した理由について整理します ・[ミライラボ/ルーブルーLearning Guide～] を熟読します
第14週 (対面)	**検討結果のアウトプット③** **◆グループによるプレゼンテーションを行うことができる** **◆他グループのプレゼンテーションを評価することができる** **◆他グループとの比較を通して, 自グループの改善点を見出すことができる** [事前学修：3時間] ・前時の事後学修で追加や削除, 修正を行った項を含め、グループ全員の提示資料を統合し, 確認を行います ・前時の事後学修で行ったプレゼンテーション全体の修正や調整をグループ全員で確認し, 発表練習を行います [事後学修：1時間] ・他グループの発表に関する評価や担当教員の講評を参照しながら, 自グループの具体的な改善点についてあらためて考えます
第15週 (対面)	**総括・振り返り** **◆本科目における自身の学びを客観的に振り返り, 各到達目標についての自己評価を行うことができる** **◆本科目における達成状況を参照しながら, 後学期に向けた具体的な目標を設定することができる** [事前学修：2時間] ・各TARGETや各授業回における学修内容, ワークへの取り組みを含めた自身の学修態度等について, 振り返りを行います ・[日本大学教育憲章] に示される8つのスキルや各授業回の到達目標について, 自身の達成度を評価できるよう準備を行います [事後学修：1時間] ・本科目全体での学びや学修成果についてあらためて確認します ・本時に定めた[後学期の目標] を達成するための具体的な方法を考えます

■ 成績評価基準

各授業回の[自己評価と振り返り] で提出する[振り返りシート]、課題の取り組み及び授業への参画状況を成績評価の対象とします。
[振り返りシート] では、省察の態度・習慣を評価します。

各授業回の配点は以下のとおりです。
[スタートアップ]　6点(第1週)
[TARGET1]　24点(第2週, 第3週, 第4週, 第5週：各6点)
[TARGET2]　24点(第6週, 第7週：各6点, 第8・9週[2時限合算]：12点)
[TARGET3]　36点(第10週, 第11週, 第12週, 第13週, 第14週：各6点, プレゼンテーションに対する教員の総合評価：6点)
[総括・振り返り]　10点(第15週)

■ 教科書及び参考図書

教 科 書：特にありません
参考図書：[ミライラボ/ルーブルーLearning Guide～] (その他の参考図書については、授業内で適宜提及します)

■ オフィスアワー

授業時に指示します

■ 特記事項

項目	対応	項目	対応
アクティブラーニングの実施	有	教員の実務経験	無
オンラインによる授業回	有	オンデマンド型による受講	不可
授業資料の配付方法	Google Classroom	課題等の提出方法	原則として, Google Classroom経由とします

科目の基本情報
・科目名　・担当教員名
・授業形式 (講義／実習など)
・対象学年 (履修できる年次)
・履修方法 (必修／選択), 単位数

科目のキーワード, 概要説明
キーワードによって, 科目のジャンルや特性を端的に知ることができる。また履修期間の中で, 授業がどのように展開され, どういうことを学んだり行ったりするのかなど, 科目のあらましが記されている。

科目の位置付け
この科目履修を通じて, 最終的にどのような力が身に付くのかが記載される。また履修の過程においても, どのようなことができるようになるのかといった具体的に身に付く能力やスキルが書かれているので, 科目選択の際や, 自身の学修の到達目標として活用できる。
・一般目標 (GIO)
・個別行動目標 (SBOs)
※到達目標
・日本大学教育憲章との関係性
・ディプロマ・ポリシー (DP) との関係性
・カリキュラム・ポリシー (CP) との関係性

15週の各回の授業内容
授業のテーマと概要, 予習・復習・課題の内容などの説明と, 授業進行の時間配分まで, 詳しく記載されている。

成績・評価について
成績評価方法と, 授業回ごとの配点など, 詳細に明示されている。

教科書・参考書の指定, 教員の連絡先

特記事項
授業形態や配布資料, 課題提出の方法などが記載されている。

成績・卒業要件

1 成績評価と単位

❖ 成績評価のしくみと意味

「成績評価」は，履修した科目の学修成果で教員が判断（評価）します。その学修成果については，できるだけ公平かつ客観的に評価するため，正答式やルーブリック評価（P.38 参照）など，適切な評価方法を用い，あらかじめ評価の基準や評価の対象（レポート，定期試験，授業参画度など）をシラバスに明記し，学生にも事前に理解できるようにしています。成績評価は，これまでの取組を振り返り，卒業までの履修計画を立てる上でも参考になることでしょう。

また教える側の教員も，成績を通じて明らかになる授業に対する学生の理解度を資料とし，授業をより効果的に展開できるよう，授業改善に努力しています。

❖ 成績と「単位」の関連

履修した科目で規定の成績評価を得ると，「単位」を修得できます。1 科目は通常 15 週にわたり，体系的に設計されているため，日ごろからの授業への取組が重要。大学の教育課程では，個々の授業科目ごとに設定された単位を積み重ねていきます。

修得した単位が卒業要件を満たすことによって修了となり，学位*が授与されます。

学位
大学・短期大学を卒業した人や大学院の課程を修了した人に対して授与される称号。

2 授業や課題ごとに達成度を測る，ルーブリック評価

❖ ルーブリックとは？

正解・不正解では測れないレポートやプレゼンテーションなどを評価するツールとして，日本大学では一部の科目でルーブリック評価を導入しています。あらかじめ設定された授業や課題での到達目標*に対して，皆さんが「どの程度」達成できたのかを段階別の評価基準で測るので，目に見えにくい「成果」や「努力」を可視化することができます。

❖ ルーブリックのしくみと使い方

ルーブリックは，段階別に達成度の状態を文章化*しているので，皆さんは評価されるポイントがはっきりわかります。また反対にその状態を目標にして，授業や課題に取り組むことができるので，学びや成長の指標として，皆さん自身が活用できるようになっています。

到達目標

科目（授業）で育成する能力や能力レベルの達成目標のこと。学生はそれを目標に，授業を受け学ぶ必要がある。到達目標は，教員が設定し，シラバスで提示される。また，テスト，レポート，課題に適用するルーブリックも記されている。

段階別に達成度の状態を文章化

評価ポイントが明快になるという，学生側のメリットがある。他方，教員の主観が影響する恐れが少なく（透明性），複数の教員が評価しても同じ結果が得られる（公平性）という，評価者の教員にとってのメリットもある。

■ ルーブリックを使った評価表の例

（レポート採点用のルーブリック）

評価の基準

評価の観点

領域	観点	A	B	C
構成	記載内容が読み手にわかりやすいように配慮されている。	全体的に非常にわかりやすいように配慮されている。	配慮はなされているが，わかりにくい部分が一部ある。	配慮はなされておらず，全体的に非常にわかりにくい。
記述内容の正確さ	綴りのミスや誤字，脱字がない。	綴りのミスや誤字，脱字がない。	綴りのミスまたは誤字，脱字は，全部で3箇所以内である。	綴りのミスまたは誤字，脱字が，全部で4箇所以上ある。
振り返り	自己の受け止め方がどう変わったか，今までの思い込みが変わったかなどの振り返りについての記述がある。	振り返りについての記述が十分になされている。	振り返りらしき記述はあるが，十分とはいえない。	振り返りに関する記述はほとんどない。

3 予習・復習も単位のうち!? 単位修得に必要な学修時間

授業科目の単位に必要な学修時間は，大学設置基準*で，「1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし―」と規定されています。日本大学は，大学設置基準に基づいて定めた「日本大学学則」により，次のとおり授業科目の単位計算をしています。

大学設置基準

大学を設置し運営していくにあたり必要な最低限の基準を定めた文部科学省令。

種別	1単位に要する授業時間
講義，演習科目	15時間から30時間までの範囲で学部等が定める時間の授業をもって1単位
実験・実習・実技科目	30時間から45時間までの範囲で学部等が定める時間（注1）の授業をもって1単位

（注 1）芸術学部における個人指導による実技の授業については，15 時間の授業をもって 1 単位とする。
※ 講義，演習，実験，実習または実技のうち 2 つ以上の方法により授業を行う場合については，その組み合わせに応じ，上表に規定する基準を考慮して学部等が定める時間の授業をもって 1 単位とする。
※ 教育上必要と認められる場合には，修得すべき単位の一部について，時間制をとっている。

■ 講義の場合

授業時間 2 時間
＋
授業時間外の学修（予習・復習など）4 時間
× 15 週 ＝ 90 時間の学修

〈例〉

予習	授業	復習
2時間	2時間	2時間

× 15 週 ＝ 2 単位

毎週 1 時間*の授業を 15 週行って 1 単位としているため，大学設置基準で規定されている「45 時間の学修を必要とする内容」を満たすには，1 時間の授業に対して 2 時間の授業時間外の学修が求められます。つまり，授業時間に加え，予習・復習の時間も単位に含まれると考えられています。

授業の理解を助けるために，レポートや課題などが課されることがありますが，この単位の持つ意味（単位の実質化）をよく理解し，真剣に学修に取り組んでください。課題が特に与えられなくても，予習・復習を習慣付けることが必要です。

1 時間

大学では，45 分を「1 時間」と計算しているため，90 分間の 1 授業時間は「2 時間」となる。例えば，2 単位の講義科目の場合は，1 授業時間（90 分）の授業を 15 週行い，30 時間確保していることになり，授業時間外学修の 60 時間と合わせて単位数として 2 単位を与える，と考える。

4 厳正な成績評価のための基準（GPA 制度）

日本大学では，厳格な成績評価や綿密な履修指導，学修の質保証を目的として，GPA（Grade Point Average）制度を導入しています。GPA とは，成績評価別に定められた係数を付与して，1 単位あたりの平均値を算出する成績評価方法です（下表「成績評価基準」参照）。

また GPA 値は成績評価と，科目の単位数を関連付けて算出するので（下表「GPA 計算式」参照），単位数によって，“学修の重み”が異なってきます。S 評価が多くても，単位数の大きい科目を落としてしまうと，GPA 評価が下がってしまうこともありますので，十分理解した上で授業に取り組んでください。

■ 成績評価基準

		素点	評価	係数	内容	GPA
判定	合格	100～90点	S	4	特に優れた成績を示したもの	対象
		89～80点	A	3	優れた成績を示したもの	
		79～70点	B	2	妥当と認められたもの	
		69～60点	C	1	合格と認められるための成績を示したもの	
	不合格	59点以下	D	0	合格と認められるに足る成績を示さなかったもの	
無判定		—	E	0	履修登録をしたが成績を示さなかったもの	
		—	P	—	履修登録後，所定の履修中止手続きを取ったもの	対象外
		—	N	—	留学や編入学などにより，修得単位として認定になったもの	

■ GPA 計算式

$$\frac{\left(\begin{array}{c}4\times S\text{の}\\ \text{修得単位数}\end{array}\right)+\left(\begin{array}{c}3\times A\text{の}\\ \text{修得単位数}\end{array}\right)+\left(\begin{array}{c}2\times B\text{の}\\ \text{修得単位数}\end{array}\right)+\left(\begin{array}{c}1\times C\text{の}\\ \text{修得単位数}\end{array}\right)}{\text{総履修単位数}\ (S+A+B+C+D+E)}$$

※ 分母には，P（履修中止科目）および N（認定科目）は含まず，GPA には算入しない。
※ GPA 算出の対象科目は，学科の課程修了に関わる授業科目（卒業論文・卒業研究・卒業制作を含む）となる。
※「成績証明書」では，合格した授業科目の成績（S，A，B，C）および認定科目（N）のみを表示する。したがって，不合格科目（D）や履修登録をしたが成績を示さなかった科目（E）および履修中止手続きをした科目（P）については，「成績証明書」に表示されない。
※ D評価または E 評価となった科目を再履修しない場合は，GPA算出の際，総履修単位数として分母にそのまま残るので，注意が必要。なお，D評価または E 評価となった科目を再履修した場合，累積のGPA算出の際には，最後の履修による成績および単位数のみを算入する。
※ GPA 制度の詳細は，学部等で配付される『学部要覧』などを参照のこと。

❖ 履修登録 → 成績 → 振り返り

学期末や年度始めに通知される「成績表」に示された GPA を検証しましょう。その学期や学年における学修を振り返ることにより，次学期や次年度の履修計画を立てる指標となります。いったん履修登録した科目は，履修中止手続きをしない限り GPA の対象となります。こうした学修プロセスは，履修を通じて「自主創造」できる能力を身に付けるためのものでもあるので，しっかり取り組みましょう。

5 授業改善を促す学生の“声”

❖ 学生の意見は授業改善に反映される

日本大学では，授業ごとに実施する，学生の皆さんの授業改善アンケート調査*によって，「学生による授業評価」を行っています。皆さんの率直な意見や日ごろ感じていることを教員に届けるとともに，大学は，アンケートの結果を分析して，授業の問題点・反省すべき点を洗い出し，授業の改善や学修効果の向上を図るよう努めています。つまり，学生の皆さんの声によって，授業は改善されていきます。大学の授業の内容や進め方は教員だけの考えで決められるのではなく，学生の意見を反映し，授業の改革・改善が行われていくわけです。

授業改善アンケート調査
理解しやすい授業になっているかといった，教員個人の授業に対する学生の率直な意見収集や，学部・学科単位でのカリキュラム改善などを目的として，学生に行う「授業」に関するアンケート調査。

卒業への道のり

1 卒業要件

❖ 卒業が認められる「卒業要件」は学部・学科ごとに違う

学部・学科によって定められた卒業の認定に関する方針（DP）の下，修業年限に達し，所定の授業科目および単位を修得すると卒業が認められます。学部・学科ごとに卒業のために必要な単位数は異なり，また学年が上がる際にも修得すべき単位や科目が規定されている場合があります。皆さんは，所属する学部・学科の卒業要件をきちんと確認するとともに，1 年次の履修から計画的に積み上げていく必要があります。

❖ 学位とは？

学位とは，大学や大学院の課程を修了した人に授与される称号です。学部生は「学士」，短期大学部生は「短期大学士」の学位が授与されます。学位は，専攻分野の名称が併記されます。例えば法学部の場合なら「学士（法学）」となります。

このように，学位は日本大学で特定の専門分野を学修し，一定の教育課程を修めた証しとなるのです。

2 さらに専門分野を追究するなら

もっと専門分野の知識を深化させたい，研究者を目指したいと思ったら，大学院進学の道があります。

大学院では，修士*，博士*，あるいは専門職*の学位取得に向けて，学修・研究することになります。修士以上の学位は，一定の専門性を有する人材としての称号なので，取得すると研究職や大学教員などへの道が広がります。

修士
大学院の修士課程（博士前期課程）を修了し，論文などの審査に合格した者に対して，「修士」の学位が授与される。

博士
大学院の博士課程（博士後期課程）を修了し，論文などの審査に合格した者に対して，「博士」の学位が授与される。

専門職
専門職の課程を修了すると，「専門職学位」が授与される。

TARGET1

日大生としてのアイデンティティ

日本大学を知る①

◆ 本学への入学動機について振り返ることができる
◆ 本学の歴史や特色を理解し，説明することができる

【事前学修】

所要時間	学 修 内 容
1 時間	・「ミライヲツクル Learning Guide」46 ページのワークシートを用いて，入学前に抱いていた本学のイメージや本学を受験した理由について整理します ・社会で活躍する本学の卒業生について，所属する学部や学科にとらわれず，幅広く調べます

【事後学修】

所要時間	学 修 内 容
1 時間	・授業内で視聴した動画や担当教員による追加説明から得られた新たな情報について整理し，インターネット等で関連する情報を収集します

日本大学の歴史を知り，自分が学ぶ大学の背景を理解しよう

日本大学の歴史とあゆみ

❖ 日本法律学校として設立

日本大学の前身である日本法律学校は，明治 22（1889）年 10 月 4 日に創立されました。大日本帝国憲法が発布され，また欧米の近代法を取り入れた刑法・民法・商法などの諸法典も整備されつつある時期でした。

司法大臣の山田顕義（あきよし）は，それまでの欧米諸国の法律を学ぶことが主流の法学教育に疑問を持ち，日本の伝統・慣習・文化を踏まえた日本の法律を教育する学校構想を抱いていました。

同時期，宮﨑道三郎・金子堅太郎などの若き法律学者たちも，日本法学教育の必要性を認識し，山田とは別に日本法律学校設立構想を進めていました。同様の構想を進めていることを知った山田は，宮﨑らを全面的に支援し，日本法律学校は創立されました。

現在，日本大学では，創立に関わった法律学者など 11 名を創立者とし，彼らを全面的に支援した山田顕義を学祖として顕彰しています。

設立者総代
宮﨑 道三郎

初代校長
金子 堅太郎

❖ 学祖　初代司法大臣 山田顕義の活躍

山田顕義は，弘化元（1844）年，長門国萩（現山口県萩市）で，山田顕行の長男として誕生しました。吉田松陰の松下村塾に入門し，幕末から明治初年にかけては，軍人としての才能を発揮します。特に戊辰戦争では，新政府軍を率いて，東北諸藩および箱館五稜郭の旧幕府軍平定に功績を挙げました。

学祖　山田顕義

明治 4（1871）年，岩倉使節団に理事官として随行し，欧米諸国の軍事制度を調査研究します。

帰国後は，司法省に勤務して近代法整備に尽力しました。その後，参議兼工部卿，内務卿，司法卿を歴任し，明治 18（1885）年，内閣制度発足に伴い，初代司法大臣に就任しました。

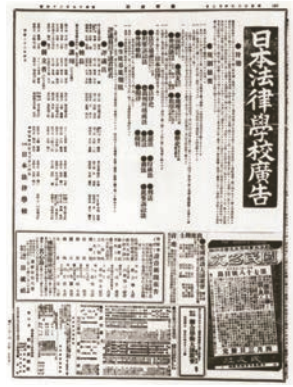
教育面では，明治 22（1889）年には皇典講究所所長に就任し，同所内に日本法律学校を創立しました。

明治 25（1892）年 11 月，山口亀山における旧藩主毛利敬親等銅像起工式出席の帰路，生野銀山（現兵庫県朝来市生野町）を視察中，49 歳で急逝しました。

❖ 創立の目的

日本法律学校の創立目的は「日本法律学校設立主意書」に記されています。これを要約すると，(1) 日本の法律は新旧を問わず学ぶ，(2) 海外の法律を参考として長所を取り入れる，(3) 日本法学という学問を提唱するという 3 点です。

欧米法教育が主流な時代にあって，日本の法律を教育する学校の誕生は，大いに独自性を発揮することとなりました。



日本法律学校広告

❖ 千代田区に校舎建設

日本法律学校開校当初は，飯田町（現東京都千代田区飯田橋）にあった皇典講究所の一室を借りて授業が開始されました。明治 23（1890）年には國學院（現國學院大學）も同所に創立されたため，昼は國學院，夜は日本法律学校が同じ場所で授業を行いました。

明治期の校舎

明治 29（1896）年，日本法律学校は神田区三崎町（現千代田区神田三崎町）に初の独立校舎を取得しました。これが現在の法学部本館のある場所です。

❖ 日本法律学校から日本大学へ

明治 36（1903）年，日本法律学校は，校名を日本大学として大学組織に改め，翌 37（1904）年，専門学校令による認可を受けました。

大正 9（1920）年，大学令による大学となり，本学は総合大学への道を歩むこととなります。昭和 24（1949）年，新制大学として再出発した本学は，「日本大学の目的および使命」を制定して戦前の教育体制の見直しと組織基盤の整備を進め，多様な学問分野を有する総合大学として今日に至ります。

（広報部広報課）

授業ワーク

自主創造 日本大学 NIHON UNIVERSITY

「自主創造の基礎」

学生番号：　　氏名：

個人ワーク１　「入学前の日本大学のイメージと入学動機」

入学前の日本大学に抱いていたイメージと、本学を志望した理由について記入してください。

個人ワーク２　「社会で活躍する日大人」

インターネット検索を用いて，社会で活躍している日本大学の卒業生を調べ，記入してください。
また，ワーク後にシェア活動を行うので，人物の活動内容についても具体的に記入してください。

TARGET1

日大生としてのアイデンティティ

日本大学を知る②

◆ 本学の総合大学としてのメリットを理解し，説明することができる
◆ 在学中の大きな目標を設定することができる

【事前学修】

所要時間	学 修 内 容
1 時間	・指定された事前学修動画から１つを選択し，視聴します ①日本大学の教育・研究を知る「産官学連携」　国際関係学部　矢嶋先生 ②日本大学の教育・研究を知る「学部間横断型共同研究」 医学部　松本先生・生物資源科学部　加野先生 ③日本大学の教育・研究を知る「国際法」　危機管理学部　安藤先生 ④日本大学の教育・研究を知る「ドラえもんをつくる＆学生参加型研究センター」 文理学部　大澤先生 ・視聴した事前学修動画について，自身の考えをまとめます

【事後学修】

所要時間	学 修 内 容
1 時間	・上記の選択しなかった事前学修動画を視聴し，改めて本学の総合大学としてのスケールメリットについて考えます ・本時に作成した「在学中の目標設定」を達成するための具体的な方法を考えます

第3週の学修に関連する動画はこちらから

8つの能力を育てるために，様々な学び・体験の場を活用しよう

1 自ら学び，知識を蓄え，視野を広げよう

❖ 体験型学修で，生きた知識を吸収する

8つの能力は，机に向かって書物を読み，講義を受けるだけでは得られません。P.12で示した体系的で多様な科目を履修するとともに，アクティブ・ラーニング*，フィールドワーク*などの体験型学修によって生きた知識も蓄え，より多くのものを見て吸収しましょう。

❖ 専門科目だけじゃない，教養教育科目の重要性

大学では専門教育科目だけでなく，教養教育科目*（一般教育科目・総合教育科目や外国語科目など）を広く学びます。学年を追うごとに専門教育科目が増えていきますが，その時に社会のしくみや国際情勢など，より多くの知識や視点を得るために教養が必要となります。「関心のあることだけを学びたい!」と思う人もいるでしょうが，関心のあることをもっと深く広く学ぶためにも，新たな関心に気づくためにも，社会で豊かに生きていくためにも，教養を身に付けることは重要なのです。

❖ 相互履修制度を活用しよう

「相互履修制度」は他学部・他学科の授業を受講できる制度。例えば文理学部で化学を学ぶ学生が，生物資源科学部で食品と化学物質の関係について学ぶなど，自分の専門領域のフィールドを広げ，応用力を養うことができます。また他学部のキャンパスで受講するため，他学部の学生や教員と交流する機会にもなります。多様な学部がある日本大学ならではの，学びのスケールと充実感が得られることでしょう。

アクティブ・ラーニング
反転授業，グループワークなどを代表例とした能動的な学修の総称。主体的に取り組み，他者と対話し学ぶことによって，知識だけではなく，社会的能力や経験などの汎用的能力の向上に有効とされている。

フィールドワーク
研究に関連する場所や調査対象がいる場所に実際に赴き，インタビューやアンケート，資料収集などを行う調査法のこと。

教養教育科目
「一般教育科目または総合教育科目」「外国語・保健体育科目」を指す（P.12参照）。また，「全学共通教育科目」も含む。卒業するためには，学部・学科の専門分野である「専門教育科目」の他に，これらの科目群からの履修も必要となる。これらの科目は専門分野を学ぶ上でも，多角的な視点を得るためにも重要である。

※「一般教育科目」「総合教育科目」は同目的の科目群。学部によって名称が異なる場合もある。

2 自ら考える力，切りひらく力の土台を築く

❖ 全学共通教育科目「自主創造の基礎」

全学部共通で1年次に開講される科目です。「自主」性を育て，「創造」性へのステップとなる，「学び方を学ぶ」授業が展開されます。グループワークやディスカッションなど能動的な学修スタイルで，「自ら考え」，他者に伝えることを習練するとともに，学びに取り組む姿勢，他者と協働するスキルを学びます。大学での学び方の基礎が身に付き，その後の課題や自分の能力を発見する機会になることでしょう。

❖ 1年次生約16,000人が集う，「ワールド・カフェ」

「自主創造の基礎」の授業の中で行われるのが，「日本大学ワールド・カフェ」です。一番のポイントは，全学部の1年次生が集い，語らう場であること。多くの学生から「刺激を受けた」という声が届いています。

➡ ワールド・カフェについては，P.67で詳しく

❖「自ら道をひらく」一歩になる，「自主創造プロジェクト」

もっと学生の興味や活動を広げる機会を提供しようと，令和元（2019）年にスタートした「日本大学自主創造プロジェクト」。学生の自主的な“やってみたい!”プロジェクトについて応募・選考*を経て大学が補助金を支給，バックアップをします。自らの力で，文化の進展やSDGs*に取り組んだり，専門分野の学修に生かせる形にするなど，あなたが成長する一歩になるはずです。

➡ 自主創造プロジェクトについては，P.52で詳しく

自主創造プロジェクトの応募・選考
日本大学の学生で，2学部以上かつ5名以上のグループが応募条件。選考の上，10～30万円の補助金が給付される（P.52参照）。

SDGs
2015年9月の国連サミットで採択された，2030年までに達成すべき，持続可能な世界を実現するための国際目標のこと。貧困や飢餓，エネルギー，気候変動，平和的社会などの諸問題に対し，17のゴール・169のターゲットが設定されている。

3 自分の殻をやぶって，自ら道をひらき，広い社会や世界に出よう

❖ 学生の視点から，大学での学びを考える「日本大学 学生 FD CHAmmiT（ちゃみっと）」

日本大学が推進する大学の授業をより良くするためのFD（Faculty Development）活動の一つに学生が自ら企画・運営する「CHAmmiT（ちゃみっと）」があります。大学教育に対して自らの声を届けることや，仲間と共に行う年間を通じた活動は，大きな達成感と自信につながります。

➡「日本大学 学生 FD CHAmmiT」については，P.51 で詳しく

❖ 海外留学で，経験や語学力を高める

本学には様々な留学プログラム*があり，多くの場合は単位として認定されます。海外留学は，多様な文化や価値観にふれる貴重な機会です。海外留学は「自主創造」そのものです。

❖ 職業選択を考える機会となるインターンシップ*

学生のうちに，企業で働く体験ができる制度。希望する業種の職場で実習をすることにより，実際の仕事の内容や「働く」ことへの理解が深められるメリットがあります。学びのモチベーションにもつながります。

❖ 地域貢献活動・クラブ＆サークル

学びを地域に還元する活動やボランティア，クラブ・サークルなどの課外活動も，社会生活を知り，対人関係を築くきっかけに。経験は社会に出た後の力になります。

留学プログラム

アメリカ，カナダ，イギリス，韓国，中国など33か国1地域127大学など（令和5年1月現在）と学術交流協定等を結び，交換留学を行っている。その他，短期海外研修，認定留学，海外ボランティアなど多様なプログラムや奨学金を含めたサポートがある。自分にどんなプログラムが合うか，相談して欲しい。
（窓口：国際化推進室）

インターンシップ

企業実習。在学中に企業などで業務の実習を体験すること。希望する職業の内容を実際に理解し，学生と就業先との認識の相違を解消して，自らのキャリアを描けるという利点がある。

押さえておこう！ 大学のサポート

あなたの行動が大学を変える？！「自主創造」を支援する全学的なプログラム

日本大学 学生 FD CHAmmiT（ちゃみっと）

「CHAmmiT」は，「CHAT（チャット）」のように，気軽に話そうをコンセプトにして，全学部から学生が参加し，教員，職員も加わって，所属やキャンパス，立場を超え垣根なく，大学の教育や授業について意見交換する，学生主体のイベントです。

CHAmmiT に参加するには？

CHAmmiT の企画・運営学生スタッフと，イベント当日の参加者を公募しています。詳しくは，日本大学 FD 推進センターのホームページを確認してください。

詳しくはこちらから

学生の声を届ける教育改善の取組 ～学生 FD 活動～

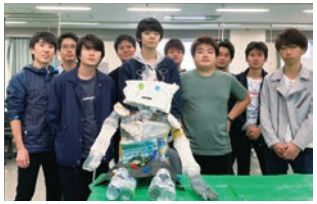
〈文理学部〉 学生発案型授業（プロジェクト教育科目）が企画され，「人間関係とこころの社会学ー“生きづらさ”について話し合う」（令和2年度）というテーマで，複数の教員によるオムニバス形式の授業を実施しました。

〈生産工学部〉 しゃべり場「他学科って何してる?」など，多様なイベントの開催とともに，ポスター，学部ホームページ，学部X（旧 Twitter），学部広報誌「SPRING」を通じて活動内容を発信しています。

日大生のやってみたいを実現するプロジェクト

－「日本大学自主創造プロジェクト」－

❖ 自主創造プロジェクトとは？



富士山清掃活動とアート制作を通じた環境保全推進活動

皆さんが日頃，他の学部の人と協力してあんなことをしてみたい，こんなことをしてみたいと思うことはありませんか。何かしたくてもお金も必要，実際行動に移すにはいろいろと障害があり，実現が難しいのではないでしょうか。

日本大学ではそんな皆さんの夢をサポートします!

教育理念「自主創造」の実現に向けて，「自ら学ぶ，自ら考える，自ら道をひらく」能力を実践の場を通じて育む機会を与えています。多様性に対する気づきを与え，皆さんの学修をより深化させることを目的として様々な取組を支援しています。令和５年度は，25 プロジェクトの応募があり，22 のプロジェクトが採択。採択されたプロジェクトには 10 ～ 30 万円を基本額として，最高 100 万円（プロジェクト内容等による）の補助金が支給されます。

❖ どんなことができるの？（令和5年度）

プロジェクト名	参加学部
フィリピンの子どもたちに音楽のテキストブックと楽器を届けよう！	文理・芸術・生物資源科・通信教育部
NU SDGs Project.	経済・芸術・危機管理・スポーツ科・理工
竹灯りの祭りで放置竹林の美化と網代地域や住民の心に灯りをともす	危機管理・生物資源科
日本大学ビジネスプランコンテスト	経済・生産工・松戸歯
KIMONOカフェ1000プロジェクト	文理・経済・商・芸術・生産工・生物資源科

自主創造プロジェクトに応募するには？

日本大学ホームページ記載の内容を確認，「応募資格」などを満たせば，どなたでも応募可能です。募集時期は毎年１月～４月ごろです。詳しくは，日本大学ホームページを確認してください。

※募集内容は変更となることがあります。

詳しくはこちらから

授業ワーク

自主創造 日本大学 NIHON UNIVERSITY

「自主創造の基礎」

学生番号：　　氏名：

個人ワーク１　「在学中の大きな目標を考えよう」

在学中に達成したい目標（大きな目標）を設定しましょう。

大目標を達成するために直近でどのようなアクションを起こすべきか，考えてみましょう。

自主創造の基礎　第4週

TARGET1

日大生としてのアイデンティティ

自身の学部を知る①

◆ 所属学部の特徴を理解し，説明することができる
◆ 所属学部の施設・設備とその利用方法を理解することができる

【事前学修】

所要時間	学 修 内 容
2 時間	・所属学部にはどのような施設・設備があるかについて，インターネット等で情報を収集します ・フィールドワークを行う施設・設備について下調べを行い，円滑に見学や利用が行えるよう準備します ・所属学部の周辺地域について，情報を収集します

【事後学修】

所要時間	学 修 内 容
2 時間	・フィールドワークを行った施設・設備についてインターネットや実地見学等で追加情報を収集し，さらに理解を深めます ・フィールドワークを行った施設・設備について，他学部や他大学に類似する施設があるかをインターネット等で調べることで，改めて当該施設・設備の特徴について考えます

学びをサポートする大学図書館

1 様々な目的で利用することができる

大学図書館の特徴は，皆さんの学修や研究に役立つ学術書や専門書が豊富に揃っていること，またそれらの本は借りることができることです。図書館の“使い方”はこれだけではありません。授業の予習・復習やグループワークを支援するラーニング・コモンズ*など，多くの学生が様々な目的や用途で図書館を利用しています。

【図書館の主な利用方法】

- 予習・復習など個人学修のためのスペースを利用する
- レポートや論文の資料収集，またパソコンを使ってレポートや論文を執筆する
- 授業で配付されたプリントや必要な資料のコピーを取る
- 図書館にある新聞や趣味の雑誌，小説を読む
- 映画などの視聴覚ソフトを観る
- 可動式の机・椅子，ホワイトボードなどを使ったグループワークをする（ラーニング・コモンズ）

ラーニング・コモンズ
自主学習・グループ学習など自由に利用できるスペース。目的に応じて，自由に机・椅子・テーブルを動かしアレンジして，ディスカッションしたり，装備された機材を使ってプレゼンテーションの練習も可能です。

2 「情報源」としての図書館

紙の資料だけでなく，パソコンを使ってデータベースや電子資料を調べることもできます。レポートや論文作成には必要になるので，活用方法を知っておきましょう。

3 オンライン検索で，本や資料を探す

大学図書館の蔵書*や資料がどこにあるか，OPAC（Online Public Access Catalog）で検索できます。

また，図書館には様々なデータベースがあり，日本語

蔵書
所有している図書のこと。

のデータベースでは，新聞記事を探したり，複数の辞書から言葉の意味を同時に調べたりすることもできます。

最近は，図書館の OPAC，各種データベース，電子ジャーナルなど，目的別にどのデータベースを利用するか考える必要なく，調べたいと思う「言葉」を検索窓に入力するだけで，情報が入手できるディスカバリーサービス*を使うこともできます。

検索したら，オリジナル資料にぜひあたってみてください。大学図書館には，ベストセラーのほか，良書がそろっています。良い本が，人生を変えることもあります。

ディスカバリーサービス
所蔵する図書や雑誌、電子書籍に加えて、データベースやインターネット上に公開されている論文などをまとめて検索できるサービス。検索エンジンと違い，図書館が契約するデータベースや電子書籍などが検索できるため，情報の信頼性も高い。

4 探している本や資料が見つからないときは？

日本大学の図書館蔵書冊数は，私立大学でトップクラス！ 所属する学部図書館にない資料は，他学部図書館や他大学図書館などから借りたり，コピーを取り寄せたり，実際に閲覧に行くこともできます。どの学部の図書館でも学生証で利用できます。手続き方法は，カウンターで相談してください。

5 学生を支援する図書館

学生視点で，図書館をもっと身近に，使いやすく！学生ボランティア団体が中心となり，ゲーム形式の図書館利用ガイダンス，選書ツアー，スピーカーを招いて交流するカフェなど，様々な企画を複数学部合同で実施しています。他学部の学生とも交流できます。これらの活動を通じて，情報を使いこなす能力はもちろん，プレゼンテーション能力も身に付きます。あなたも参加してみませんか？

ミステリー仕立ての図書館ガイダンス(理工学部船橋)

自主創造の基礎　第5週

TARGET1

日大生としてのアイデンティティ

自身の学部を知る②
（実施例：キャリア教育と GPS-Academic の振り返り）

- ◆ 所属学科の特徴を理解し，説明することができる
- ◆ 卒業後のキャリアをイメージし，段階的な目標を設定することができる

【事前学修】

所要時間	学 修 内 容
2 時間	・GPS-Academic 受検を必ず終え，授業までに結果を受け取っておきます ・入学前に所属する学科（学部）や学系を進路として選択した理由を整理します ・所属学科（学部）のこれまでの卒業生の進路について下調べを行います ・自身の卒業後のキャリアについてイメージします ・GPS-Academic の個人結果レポートをみて，自身の強みや課題（＝伸びしろ）を確認します

【事後学修】

所要時間	学 修 内 容
2 時間	・所属学科（学部）の卒業後のキャリアについて，改めてインターネットや冊子等で情報を収集し，さらに理解を深めます ・特に，自身の興味・関心のある業種・業界について掘り下げ，より具体的な目標を定めます

あなたの学びを可視化する「アセスメント・テスト」

アセスメント・テスト*とは？

❖ 今、持っている汎用的な能力を可視化する

「アセスメント・テスト」とは，標準化されたテストなどにより学生の能力や行動特性などを客観的に測定する方法のことです。

本学ではオンライン形式のアセスメント・テストを実施します。コミュニケーション･スキルや課題発見力，計画立案力など，どのような仕事においても必要とされるジェネリックスキル（汎用的能力）を「思考力」,「姿勢・態度」,「経験」といった観点で測定し，大学での学びの成果が得られているのか，皆さん一人ひとりにフィードバックします。

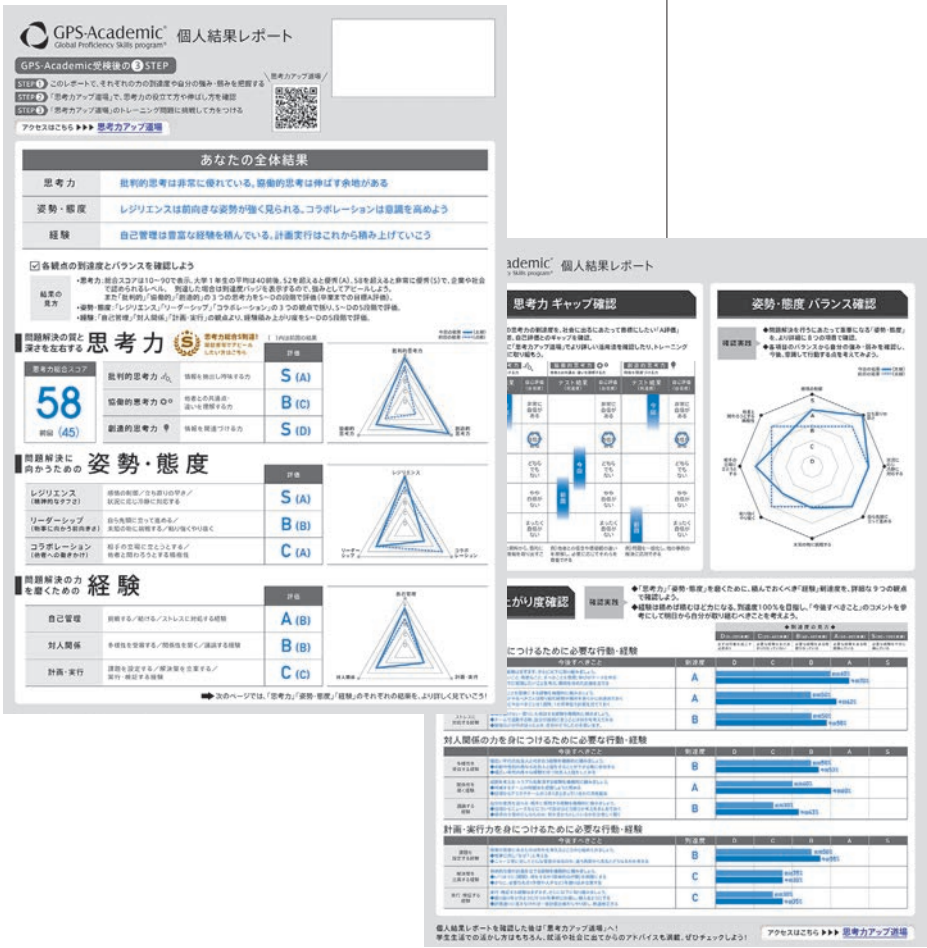
入学時から毎年実施するアセスメント・テストを必ず受検することで，自らの成長や能力の変化を客観的に把握することができ，自分の特徴を理解した上で目標に向けて計画的な学修を進められるようになります。

❖ 受検結果を参考にして，さらに能力を伸ばす

アセスメント・テストの受検後は，受検者に対して全体結果や各測定項目に関する修得度や達成度をスコアやグラフなどで視覚的にイメージしやすくなっている個人結果レポートが配付されます。さらに，補助教材として個人結果レポートの見方の説明，思考力を伸ばすために意識すべきことの解説，今後の学生生活への活用に関する学年ごとのフォローアップ動画が配信されます。これらの結果や解説等を基に，自分自身に問題解決能力がどの程度身に付いているかを振り返ってみてください。その上で，１年生や２年生であれば，自分の成長のためにこれからどのような科目を履修するか，学内や学外の活動でどのようなことに挑戦するかなど，具体的な行動を考えるきっかけにしてみてください。３年生以上であれば，問題解決能力の更なる向上や就職活動でのエントリーシート作成や面接に向けた自己 PR・志望動機作成に活用してください。

アセスメント・テスト
人材の能力，行動や思考の特性などを客観的に評価するテストの総称。

【個人結果レポート様式】



【出典：株式会社ベネッセi-キャリア GPS-Academic　個人結果レポート】

あなたのミライヲツクル 強力な進路サポート

あなたの理想の人生とは？

皆さんの人生は卒業後の方が長い道程です。皆さんは，自分自身が今後の人生をどのように生きていくのか想像したことがありますか。これを疎かにして，卒業した後に「こんなはずじゃなかった」という声を聞くことがよくあります。

今後の人生なんて考えたこともない！という方，大丈夫です。大学にいる間に自分の軸となるものを見つけていきましょう！そのためのサポート体制が日本大学にはあります。

ここから始めよう！

まずは，卒業した後の自分を想像することから始めてみましょう。皆さんが「何をやりたいか」「何になりたいか」という軸となるものを自分自身で考えることが一番重要です。そして，将来なりたい自分になるために，一つでも良いので「自分はこれをがんばった!」「自分はこれに力を注いだ!」というエピソードが話せるように学校生活を充実させましょう。この経験は，就職活動の際に皆さんの武器になるとともに，社会人になった時に必ず役に立ちます。

約 120 万人の頼れる味方がついている

日本大学の卒業生は約 120 万人いて，数々の先輩たちが社会で活躍しています。

また，専任の就職支援スタッフ数も全国の大学でもトップクラスで，各学部との連携により強力な支援体制を整えています。

これらの卒業生やスタッフは，皆さんが未来に向き合う時，味方になる人たちです。

豊富な就職情報「NU 就職ナビ」

日本大学の学生だけが利用できる就職情報システム「NU 就職ナビ」があります。毎年1万件以上の求人情報の配信，約8万件の企業情報や OB・OG 情報，先輩たちの就職活動の記録など，就職活動に役立つ情報が掲載されています。

他にも，公務員対策講座や資格取得講座など，キャリアアップを図る各種プログラムも用意しています。学部ごとに数多くの講座やプログラムを開催していますので，積極的に利用し，キャリア・スキルアップを目指しましょう。

TARGET2

コミュニケーションとインクルージョン

コミュニケーション・スキルの錬成①

- ◆ 大学生に求められるネチケットを理解し，説明することができる
- ◆ 自身の考えを他者に伝えることができる
- ◆ 他者を尊重し，傾聴することができる

【事前学修】

所要時間	学 修 内 容
2 時間	・ネチケットについて，下調べを行います ・SNS に起因するトラブルを調べ，自身の考えや解決策についてまとめます

【事後学修】

所要時間	学 修 内 容
2 時間	・自身のこれまでの行動を振り返りながら，改めてネチケットについて考えます ・今後，自身がメールや SNS を投稿する際，どのような点に注意し，また具体的にどのような投稿を行うかについて，イメージします

メール送信のマナー

メールを送る際に心がけること

大学では，レポートの提出，授業内容への質問や各種相談のアポイントメントなどのために，教員と連絡を取りたい時，メールを利用する機会があります。教員にメールを送る際は，送信方法を守り，相手に用件・要点が伝わる文面を心がけましょう。

❖ メール作成のポイント

- ■ 大学発行のメールアドレス（NU-G メール）から送る。
- ■「件名」「宛名」「自分の所属･氏名･学生番号」は必ず記入。
- ■ 本文はテキスト形式にする（HTML 形式*にしない）。
- ■ 相手側の立場になって，理解しやすい言葉や読みやすい文章を書くように心がける。

※絵文字や顔文字の使用は不適切。

HTML 形式のメール

文字の大きさ，色などが自由に設定され，レイアウトされた，Web サイトで見るような形式で作成されたメールです。容量が大きくなるだけでなく，ウイルス感染やなりすましメールの標的にされるリスクがあるといわれています。連絡事項のやりとりには，テキスト形式で十分ですから，HTML 形式はやめましょう。

〈作成例〉

「自主創造の基礎」第６回課題（日大晶XXXXXXXX） 受信トレイ×

ニチダイアキラ〈XXXXXXXX@g.nihon-u.ac.jp〉 ●月●日（●）XX:XX

To △△△△△△@nihon-u.ac.jp

◎◎先生

お世話になっております。
「自主創造の基礎」を履修している●●学部●●学科１年 日大晶です。

第６回の課題を提出させていただきます。
どうぞよろしくお願いいたします。

日本大学
●●学部●●学科１年
日大晶
Email：XXXXXXXX@g.nihon-u.ac.jp

件名
用件が一目で分かる，具体的な内容を記入する。「質問」や「レポートについて」など，漠然とした件名は避ける。「件名なし」はNG。最後に，学生番号を記載する。

添付ファイル
●添付ファイルがある場合は，本文に明記する。
●ファイル名は，授業名や課題名，誰からの提出物なのか，一目で分かる名称にする。

宛先
送り先のメールアドレスが間違っていないか，送信前に必ず確認し，誤送信しないように注意する。

宛名
本文の冒頭に「○○先生」と宛名を書く。

本文
●用件の前に，自分が誰なのかを名乗る。
＊自分の所属・名前などを記載する
●用件は明確かつ簡潔を心がける。１行が長くならないよう，30文字程度で改行したり，内容のまとまりごとに1行空けたりして，読みやすくする。

署名
●大学名・所属・名前・メールアドレスなどの情報を記載する。
●フォーマットを作り，メールソフトに登録しておくと，自動で表示されるので便利。

TARGET2

コミュニケーションとインクルージョン

コミュニケーション・スキルの錬成②

◆ KJ法による協働ワークを通して，複数の学生の考えを集約することができる
◆ グループでの議論を通して，自身の考えを深めることができる

【事前学修】

所要時間	学 修 内 容
２時間	・所属する学部・学科に関する情報を多角的に収集します

【事後学修】

所要時間	学 修 内 容
２時間	・授業内で決めた５つのキーワードについて，改めてインターネット等で情報を収集し，所属学部・学科以外の学生に説明できるようにします ・議論にあたって用いた手法について理解を深め，今後のディスカッションで活用できるようにします

グループワークとディスカッション

グループワークとは？ ディスカッションとは？

❖ 取り組み方

グループワークは，授業で与えられた課題に対して，数人のグループで話し合い，課題への答えを導き出し，最後にはグループ発表に至る学修方法です。日本大学では授業の中で，導入されています。

ディスカッションは，問題・課題についての意見やアイデアを出し合い，討論や協議するものです。グループワークの過程でも，このディスカッションを頻繁に行います。お互いの意見を出し合い，考え合うことによって，問題・課題の解決策へのアイデアも広がり，実践的な学びになります。

ディスカッションは，パネル・ディスカッション*，ディベート*など，前述とは違う手法で行われる場合もあります。いずれにしても他の学生の意見を尊重し，相手の人格を傷つけたりしないことなどが原則です。意見を主張する際には，正しい論拠と論理が求められます。

❖ この学修から身に付く力

グループワークやディスカッションでは，自分とは違った発想や反対意見に出会い，視野を広げることができます。また「自分の意見を言う」姿勢と，他者が理解しやすいように「考えて話す」という力が身に付きます。

「話すのが苦手」と思う人も多いかもしれませんが，下調べ不足や自分の考えがまとまっていないだけかもしれません。事前準備を行い，少しずつでも苦手意識を解消していきましょう。

パネル・ディスカッション

異なる意見を持った数人の討論者（パネラー）が聴衆の面前で一定の論題に関して討議し，その後，聴衆も討議に加わって，質疑応答や意見発表を行う座談式公開討論法。

ディベート

ある主題について，異なる立場に分かれて議論すること。

グループワークの仕方

グループワークの流れとポイント

グループに分かれる

①教員の指示にしたがって，グループに分かれる
②アイスブレイク
　あまり話をしたことがない人とグループになる場合もあるため，グループになじみやすいように，自己紹介したり，ゲーム感覚の簡単なワークをしたりする場合がある。

照れたり，恥ずかしがっていると，始まらないので積極的に声を出そう。

グループの中で進め方を決める

①役割分担
　・進行役，書記，タイムキーパーなど場の役割
　・下調べなどの分担
②話し合いの手順
　与えられたテーマに対して，現状の問題点／類似する環境／各自の意見など，どのような角度から話し合っていくか，進め方を考える

何事も，誰が，いつまでに，どのようにと手順を明確にすることが必要になるので，手順の決め方を学ぼう。

議論～発表

①課題の確認
②広く様々な意見を出し合う
③出た意見を分類する
　（類似の意見は集約，意見の内容別に分類）
④それらがどうつながり，解決の糸口は何かなど，話し合い考察を深める
⑤グループの意見として，最終的な見解・論拠をまとめる
⑥発表のための資料をつくる
⑦他のグループに対して，グループでまとめた内容を発表する

自分では気づかなかった意見，自分とは反対の意見も出てくるはず。自分の視野を広げる機会なので，新鮮な気持ちで受け止めよう。

振り返り

①良かった点，改善点
②自分のグループと他のグループの見解を比較する
③グループワークを通じた自分の成長点を確認する

グループワークの中で自分が役割を果たせたか，特に自分はどのような気づきを得られたか，しっかり振り返ろう。

※上記の流れは一例です。授業目的等により，内容は異なることがあります。

自主創造の基礎　第8・9週

TARGET2

コミュニケーションとインクルージョン

コミュニケーション・スキルの実践
〈日本大学ワールド・カフェ N-MIX〉

- 学部を越えた交流を通して，本学のスケールメリットを改めて認識することができる
- 複数の学部や学系が共存するグループで，多様な考えを認めながら協働ワークを行うことができる
- 協働ワークの成果をまとめ，伝えることができる

【事前学修】

所要時間	学修内容
2時間	・ワールド・カフェの趣旨を理解します ・自身の所属以外で本学にどのような学部・学科があるかについて，改めて確認します（第2週で既修） ・協働ワークを前提に，第6週及び第7週の既修事項について，改めて確認を行います ・ワールド・カフェで所属する学部・学科の特色を説明する際の素材を準備します

【事後学修】

所要時間	学修内容
2時間	・ワールド・カフェを通じて得られた経験から，今後の協働ワークの進め方について考えをまとめます ・「ミライヲツクル Learning Guide」の68ページにワールド・カフェに関する学修経験をまとめます

多様な価値観がふれあう グループワーク「ワールド・カフェ」

ワールド・カフェとは？

「日本大学ワールド・カフェ（通称：N-MIX（えぬみっくす））」は，全学共通教育科目「自主創造の基礎」の授業の中で実施される，1年生全員が参加対象となる大規模なグループワークです。グループワークの仕方と，多様な考え方への気付きやそこから得たことを学びへ生かすことなどを学修します。

❖ アイデアを広げる「他花受粉*」

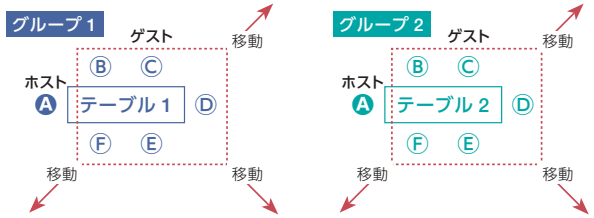
ワールド・カフェで行われるワークの特徴は，「他花受粉」。ミツバチが花から花へ飛び回り，花粉が広がっていくように，いくつかのテーブルを回り，アイデアを共有しながら，また新たなアイデアに発展させていく，生産的なスタイルで行われます。

他花受粉
ミツバチが花から花へ，花粉を付けて飛び回り，その花粉が広がることによって，異なる遺伝子が出会い，新たな種が生まれる状態を模した，グループワークの手法。

【ワールド・カフェの進行】

ラウンド1	テーマについて探究する	テーマについて自由に話し合いを行い，探究する。
ラウンド2	アイデアを他花受粉する	「ホスト」を残して，「ゲスト」は他のテーブルに移動する。「ホスト」は，自分のテーブルでどんな話があったかを，そのテーブルに来てくれた人と共有し，それを聞いて全員でつながりを探究する。
ラウンド3	持ち帰って気づきや発見を統合する	最初のテーブルに戻り，ラウンド1，ラウンド2で得られた発見や気づきを共有し統合します。
全体シェア	集合的な意見収穫し，共有する	カフェ・マスター（教員）がファシリテータとなり，全体の話し合いをする。

●ホスト（A）はそのままの位置で，ゲスト（B～F）はラウンドごとに各テーブルを回り，気づきを共有。ラウンド3で元に戻り，気付きを統合します。



私の記録 02

ワールド・カフェについて記録しておこう！

グループワークをやってみて，自分ができたこと，良かったところを書いてみよう	
今回やってみたグループワークやその中で得た気づきを今後，どのような学びや活動の中で生かせるか書き残しておこう	
ワールド・カフェで知り合った，他の学生の見習うべき点を記録しておこう	

グループワークを一緒に行った仲間の記録
（氏名や学部・学科名を書き残そう！）

自主創造の基礎　第10週

TARGET3

論理的・批判的思考とアウトプット

論理的・批判的思考の錬成①
〈テーマの決定〉

- ◆プレゼンテーションの目的や手法について理解し，説明することができる
- ◆プレゼンテーションの構成や作成のステップについて理解し，説明することができる
- ◆グループでの議論を通して，テーマを決定することができる

【事前学修】

所要時間	学修内容
2時間	・ワールド・カフェでの学びの経験や感想について，他者に伝えられるよう整理します ・プレゼンテーションの方法について，下調べを行います

【事後学修】

所要時間	学修内容
3時間	・プレゼンテーションの作成手順について確認します ・グループで決定したテーマについて，取り上げたい具体的な内容を考えるとともに，関連事項について調べます

社会でも必須スキルとなる，プレゼンテーション

プレゼンテーションとは？

❖ 取り組み方

演習（ゼミナール）を代表として，大学では学生が研究発表をする機会が多くあります。研究テーマとそのテーマに着眼した背景，調査結果，課題や考察などを順序立てて，他者に伝わるように発表することをプレゼンテーションといいます。

最近は，より高い説得力や理解度を得られるように，パソコンのプレゼンテーションソフトウエア*を使うことが多くなっています。

プレゼンテーションの際は，スライド画面を A4 用紙 1 枚に 6 画面程度，順番に記載したものをプリントして配付資料（レジュメ）にすると，より効果的な発表になります。事前に，友人に聞いてもらうなどしてリハーサルを行うとよいでしょう。

プレゼンテーションソフトウエア
PowerPoint など，テキスト・写真・クリップアートなどを編集・配置する機能を持ち，スライドショー形式でスクリーン投影などができるソフトウエアのこと。

❖ この学修から身に付く力

プレゼンテーションは，決められた時間内に発表することが原則です。発表する内容を秩序立てて明快にしておくことが必要になります。そのため，論理的思考や効果的に他者へ考えを伝えるスキルも養われることでしょう。

最近は，学会*でも企業でも，パソコンを活用した発表が主流です。演習でプレゼンテーションソフトウエアを使って研究発表した経験は，卒業後にどのような道に進んだとしても役に立つはずです。この使い方を積極的にマスターしましょう。

学会
学術研究者の団体。また，その会合。

プレゼンテーションの仕方

プレゼンテーションの流れとポイント

①発表の形式を確認する
- 課題
- 発表日時
- 発表の時間（持ち時間）
- 発表の形式（レジュメ／投影などの方法や資料の分量）

②発表テーマを決める
①で与えられた課題に対して，何を調べて発表するかを決める

③疑問・発見→根拠→主張する
②で決めたテーマについて，文献などを調べ，疑問や発見からさらに根拠を集めて，自分の主張を組み立てる

④発表の構成・順序を考える
序論・本論・結論*の 3 部構成で，発表する内容を文章化する
＊P.27 論文とレポートの書き方参照

⑤発表資料をつくる
- 発表の形式に合わせて（レジュメ形式／投影形式），資料を作成する
- わかりやすく，簡潔にまとめるのがポイント

⑥リハーサルをする
友達に聞いてもらい，時間配分や，発表内容は理解しやすいかどうかを確認して，必要に応じて手直しする

⑦想定問答を考える
発表後には質疑応答があるため，あらかじめ質問を想定して，どう答えるか準備しておく

⑧レジュメをコピーする
発表内容をレジュメにして，発表を聞く人の手元資料として，人数分コピーする（投影の場合は，1 ページに複数スライドが収まるように，縮小版をコピー）

発表本番の注意点

大きな声で，ゆっくりと話す
声が小さかったり，早口だったりすると理解しづらくなるので，口調は重要。

聞き手の反応を見ながら話す
資料を読み上げるような発表だと，聞く人への説得力が弱くなる。時々，聞き手を見渡し，反応を見ながら，必要に応じて説明を付け足すようにする。そのため，リハーサルしておくことは重要。

資料のどこを話しているか伝える
発表内容の項目が切り替わるタイミングで，配付したレジュメに示した項目タイトルやスライド番号などを告げるようにすると，聞き手が理解しやすくなる。

時間厳守
持ち時間を守ることは，発表の原則。あらかじめ時間配分を想定すること。時計で進行状況を確認しながら，発表しよう。

自主創造の基礎　第11週

TARGET3

論理的・批判的思考とアウトプット

論理的・批判的思考の錬成②
〈章立てと作成準備〉

◆資料や先行研究を調べ，得られた情報を整理することができる
◆正しい引用の方法について理解し，説明することができる
◆グループでの議論を通して，章立てを行うことができる

【事前学修】

所要時間	学修内容
2時間	・第1週の授業動画「盗用・剽窃への注意」を改めて視聴し，理解を深めます ・前時の事後学修で調べた内容について，他者に説明できるよう整理します

【事後学修】

所要時間	学修内容
3時間	・他者の意見を引用する際の作法について，改めて確認します ・議論にあたって不足している情報について，オンライン検索システム等を利用して適切に収集し，整理します

第11週の学修に関連する動画はこちらから

資料や先行研究の調べ方

1 オンライン検索システムを活用しよう

論文などの先行研究*を調べるには，さまざまなオンライン検索システムを利用すると便利です。

検索システム	用　途
Google Scholar	和文・英文問わずに論文等を検索できます
CiNii Articles	日本の論文等を検索することに役立ちます
PubMed	英文のみですが医学・生物学の論文に特化しています
その他	各学部図書館HPオンラインデータベースから膨大な情報にアクセス可能です

先行研究
自分が論文を書こうとしている研究分野で，既に発表されている学術研究を指す。

2 引用したい文献の表示方法

他者の論文や発表資料を参考にしたり，引用したりしている場合は，必ず出典・典拠*を表示する必要があります。

出典・典拠
出典は，故事や引用句・引用文の出どころである書物のこと。典拠は，信頼できる根拠となる文献を意味します。どちらも「元となる書物」を指すことには変わりなく，依拠する文献の「出どころ」を明示すべき法的な義務があります。

書籍や雑誌（論文）の場合

はじめに
○○○○○○○○○○○○○。
（△△△△，□□□□□，××××，2000）
著者名　タイトル　出版社名（学協会名）　出版年

Web サイトの場合

はじめに
○○○○○○○○○○○○○。
（△△，□□，https://www....，2022年4月8日）
省庁や研究所名およびHPのタイトル　アドレス（URL）　閲覧日

自主創造の基礎　第12週

TARGET3

論理的・批判的思考とアウトプット

論理的・批判的思考の錬成③〈資料の作成〉

◆ 聴き手に「見やすい」提示資料の技巧について理解し，説明することができる
◆ 章立てに従って，提示資料を作成することができる

【事前学修】

所要時間	学 修 内 容
2 時間	・前時の事後学修で調べた内容について，他者に説明できるよう整理します ・プレゼンテーションの提示資料をより見やすくするための工夫について，下調べを行います

【事後学修】

所要時間	学 修 内 容
5 時間	・作成した提示資料を客観的に見直し，不足している情報を追加します ・提示資料について，問題点や改善点がないか確認を行います

プレゼンテーション資料のデザイン

1 フォントの設定

❖ フォントの色

色は使いすぎないこと。強調箇所のみにとどめます。

ベースカラー ●●	主に文字に使う基本色（背景が「白」であれば文字の基本色は「黒」）
メインカラー ●●● など	主に見出しや強調させたい箇所に使用
アクセントカラー ●●● など	主にメインカラーとの区別や特に注目させたい箇所に使用

❖ フォントの種類

発表スライドでは，基本的にゴシック体*を用います。

- おすすめは視認性が高い，メイリオ，Meiryo UI，遊ゴシック，ヒラギノ角ゴ（Mac），BIZ UD（Win）
- 「MS ゴシック，MS 明朝，HG 丸ゴシック M-PRO は，太字にしてもあまり変わらないので避ける。
- HG 創英角ゴシック UB は，太字にすると潰れて見にくくなる。
- 英字に和文フォントを使うと見づらく感じるので，欧文フォントを使うのが望ましい。

❖ フォントのサイズ

重要度に応じて，強弱をつけましょう。

本文	18～32　ポイント（28p推奨）
重要度が低い文章	18ポイント以下
強調させたい文字列	32ポイント以上

ゴシック体
文字の書体の代表的な種類。縦画と横画の線の太さが均一であるようなフォントの総称。角が取れた形になっているものを「丸ゴシック体」という。ゴシック体と並ぶ代表的な書体が「明朝体」。縦画の線は太く，横画は細いのがゴシック体と異なる点。

2 適切な情報量で，要点を伝える

伝わりやすい資料にするために，スライド１枚あたりの情報量を考慮しましょう。

情報量が多いと，１つのスライドでどこが大切なのかがわからなくなってしまう。1枚のスライドに含める情報はできるだけ少なくし，情報を整理して提示する。

▶

要点をシンプルに伝える

伝えたいメッセージを絞る

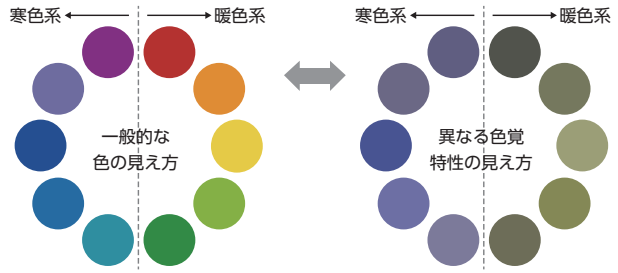
レイアウトはシンプルに

重要点が聴講者にわかりやすく伝わる

3 多様な人が見やすい，ユニバーサルデザイン* を心がけよう

色の見え方は人によって違う場合があります。色覚に特性のある人も見ることを考慮して，配色設定しましょう。

〈色覚特性による，色の見え方〉



このことから，寒色系，暖色系同士を避け，寒色と暖色を組み合わせましょう。

× 識別しにくい配色例

一般的な色覚　異なる色覚

○ 識別しやすい配色例

一般的な色覚　異なる色覚

ユニバーサルデザイン

文化・言語・国籍や年齢・性別・能力などの個人の違いにかかわらず，できるだけ多くの人々が利用できるデザインのこと。アメリカ・ノースカロライナ州立大学ユニバーサルデザインセンターのロナルド・メイス教授によって提唱された概念。SDGs やダイバーシティの推進が顕著な近年において，「最初から誰にとっても使いやすいデザイン」の重要性も高まっている。

TARGET3

論理的・批判的思考とアウトプット

検討結果のアウトプット①
〈資料のブラッシュアップ〉

◆ 聴き手に「分かりやすい」発表の技術について理解し，説明することができる
◆ 模擬発表の実践を通して，提示資料や発表方法について改善を行うことができる

【事前学修】

所要時間	学 修 内 容
3 時間	・前時の事後学修で追加作成した新たな項目を含め，グループ全員の提示資料を統合します ・発表者の割り当てに従って，模擬発表に向けた準備を行います ・聴き手がより理解しやすい発表を行うための工夫について，下調べを行います

【事後学修】

所要時間	学 修 内 容
5 時間	・プレゼンターの技術について理解を深めながら，発表練習を行います ・作成した提示資料を客観的に見直し，情報の追加や削除，修正を行います ・自グループのプレゼンテーション全体について，「見やすさ」「わかりやすさ」の観点から再検証し，適宜修正や調整を行います

聴き手に伝わる発表を目指そう

より良い発表のためのプレゼンターの技術

❖ 落ち着いて話す

- **声量が小さくならないようにします**
  — 教室後方の壁に声を届けるようなイメージで。
- **早口になりすぎないようにします**
- **はっきりと話をします**
  — “ぼそぼそ”と話すと，聞き取りづらくなります。

❖ 良い姿勢（振る舞い）を心がける

- **視線を聴講者に向けます**
  — 読み上げ原稿*やプレゼンテーション資料を見つめ続けていては声も届かず，説得力が伝わりません。
- **堂々とした態度を心がけます**
- **プレゼンポインターを活用します**
  — 話している内容と，発表資料の関連性がわかりやすくなります。活用する場合は，事前に動作チェックをしておきましょう。

❖ 失敗を恐れずに

失敗を恐れて萎縮してしまうと，かえっていい発表ができなくなってしまいます。これから何度もプレゼンテーションの機会が訪れます。「失敗したな…」と感じたとしても，どこに改善点があるのか振り返り，またチャレンジすることによって，プレゼンターの技術は磨かれていきますので，トライしていきましょう。

読み上げ原稿

発表で話す内容を書き記した台本のような原稿。発表時に話すことを忘れないようにするために事前に用意することがあるが，この原稿を読み上げるように発表すると，視線が下がり，聴講者へ訴えかける印象が弱くなる。上手に使いながら，相手に気持ちや熱意が「伝わる」発表スキルを磨くことが大事。

TARGET3

論理的・批判的思考とアウトプット

検討結果のアウトプット②
〈発表と質疑応答〉

- ◆ グループによるプレゼンテーションを行うことができる
- ◆ 他グループのプレゼンテーションを評価することができる
- ◆ 他グループとの比較を通して，自グループの改善点を見出すことができる

【事前学修】

所要時間	学 修 内 容
3 時間	・前時の事後学修で追加や削除，修正を行った項を含め，グループ全員の提示資料を統合し，確認を行います ・前時の事後学修で行ったプレゼンテーション全体の修正や調整をグループ全員で確認し，発表練習を行います

【事後学修】

所要時間	学 修 内 容
1 時間	・他グループの発表に関する評価や担当教員の講評を参照しながら，自グループの具体的な改善点について改めて考えます

プレゼンテーションには誰もが積極的に参加しよう

プレゼンテーションにはルールがある

❖ 主なプレゼンテーションの流れ

❶ PowerPoint の準備をします
❷ あいさつをします
— グループの場合は，全員が登壇し，あいさつします。
❸ テーマについてプレゼンテーションをします
❹ お礼とともに発表終了のあいさつをします
❺ 質疑応答*をします

❖ プレゼンテーションの基本的なルールやマナー

● **発表者は時間厳守で**
— 与えられた時間内で，質疑応答まで完了できるように時間配分に注意。リハーサルしておくようにしましょう。

● **プレゼンテーションを傾聴しましょう**
— 発表者の話をしっかり聴きながら，自分の感想や意見をメモするなど，質疑応答に備えましょう。
— 発表者や投影資料に目を向けたり，共感できる，納得できるような発表内容にはうなずいたりして，しっかり理解する姿勢で臨みましょう。

● **Google フォームなど，指定された方法で発表を評価**

❖「質疑応答」への取り組み方

● **積極的に質問しましょう**
— 些細なことでも積極的に質問し，意見交換しましょう。
— 挙手のうえ，教員から指名された後に起立して質問します。
— 学生番号と氏名を伝えてから質問を行いましょう。

質疑応答
聴講者が，発表内容に対して質問し，発表者がその質問に答えること。もしも答えられない（調べたり，考察していなかったりする）内容の質問を受けた場合は，その場で答えられないことを告げ，後で調べて伝達するなど対応方法を表明するようにしましょう。

総括・振り返り

◆ 本科目における自身の学びを客観的に振り返り，各到達目標についての自己評価を行うことができる
◆ 本科目における達成状況を参照しながら，後学期に向けた具体的な目標を設定することができる

【事前学修】

所要時間	学 修 内 容
2 時間	・各 TARGET や各授業回における学修内容，ワークへの取組を含めた自身の学修態度等について，振り返りを行います ・「日本大学教育憲章」に示される 8 つのスキルや各授業回の到達目標について，自身の達成度を評価できるよう準備を行います ・GPS-Academic の個人結果レポートを確認します

【事後学修】

所要時間	学 修 内 容
1 時間	・本科目全体での学びや学修成果について改めて確認します ・本時に定めた「後学期の目標」を達成するための具体的な方法を考えます

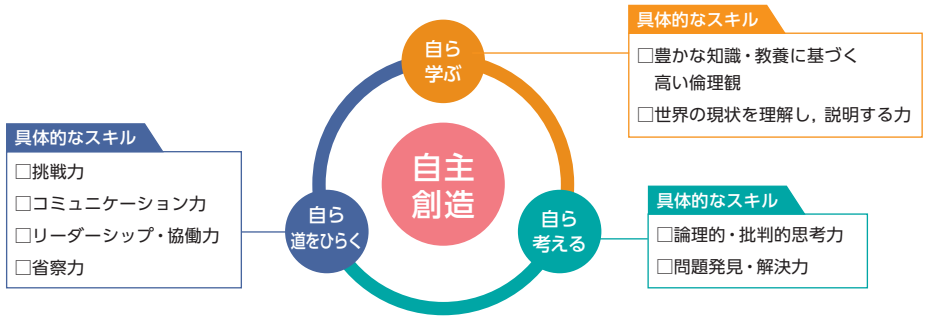
授業ワーク

自主創造 日本大学 NIHON UNIVERSITY

「自主創造の基礎」

学生番号：　　氏名：

個人ワーク２「後学期に向けた目標設定」



１．後学期に最も重点を置いて取組みたいスキルを８つの中から選び，記入してください

2.　１の選択理由と具体的な取組について記入してください。

よりよい学生生活を送るために

快適な学修環境のための心得や大学のサポート

1 学修の不安や悩みは相談しよう

大学に入学したばかりの皆さんは，期待で胸が膨らむ一方，大学の授業内容についていけるか，人間関係はうまくいくかなど，様々な不安も抱えていると思います。

日本大学では，様々な窓口を開設し，学生をサポートしています。迷ったり悩んだりした時は，それらを活用して，よりよい学修環境をつくっていきましょう。

■ 相談窓口やサポート制度

学部ごとに設置されています。利用方法・時間は各学部ホームページで確認してください。

教務課	履修に関する相談や修学に関する各種手続きを行う場所です。学生証のこと，入学・休学・復学・退学・除籍に関すること，授業や成績に関すること，資格課程に関することなどの各種手続きや証明書発行などを扱っています。
学生課	学生の大学生活に関わるサポートを行う場所です。学生団体の行事や施設に関わること，奨学金に関わること，学生寮や通学定期・学生割引に関わること，遺失物・アルバイトに関わることなどの手続きも扱っています。
就職指導課	就職活動に役立つ情報の提供，就職関連のセミナーやプログラムを開催しています。また，就職に関する相談，将来に関する不安や悩みに専門の相談員（キャリアカウンセラー）が応える個別相談コーナーも設けています。
学生支援室	学生の皆さんが悩んだり，困ったり，話を聴いてほしいときに，安心して相談できる場所です。専門スタッフがカウンセリングも行います。
オフィスアワー	学生の皆さんが教員に聞いてみたいことや，相談したいことがあった場合，教員の研究室を訪ね，教員と話ができる時間です。シラバスなどに記載されている各教員のオフィスアワー時間を確認し，授業や事前学修の疑問点解消のため，積極的に活用するとよいでしょう。

※三軒茶屋キャンパスでは，「教学サポート課」が教務課・学生課・就職指導課の機能を担っています。

2 大人として，行動に責任を持とう

❖ 学修マナーを守ろう

大学は，様々な人が様々な学びの目的を持って集まる，いわば一つの社会ともいえます。高校と違い，教員による生活指導がないのは，皆さんがルールやマナーを知る大人と認める前提があるためです。自らの責任のある行動を心掛けてください。

授業での私語，遅刻は厳禁です。授業の進行の妨げになるばかりか，静かに授業に取り組んでいる他の学生の学修権の侵害にもなるからです。

また授業内のスマートフォンなどの使用や教室での充電はマナー違反なので，絶対にやめてください。キャンパス内の決められた場所での飲食・喫煙なども当然のルールです。

大学に関係する全員が楽しく過ごせるキャンパスは，学生の皆さんが創り出すものなのです。

❖ 社会的問題を起こさないために

キャンパスの外でも，社会的なルールや大学の規則などを守ることは大切。特に未成年の飲酒や薬物などへの誘惑には絶対に乗ってはいけません。

SNS の利用にも注意が必要です。SNS への不用意な投稿が見知らぬ人々を不愉快にしたり，傷つけたり，内容によっては人権侵害になることも起こり得ます。

また，反社会的勢力*と関わりを持たないようにしてください。法律に触れる事態になりかねません。

こうしたことは同時に，自分自身を守ることでもあります。細心の注意を払いましょう。

反社会的勢力
暴力や威力，または詐欺的手法を駆使した不当な行為により，経済的利益を追求する集団または個人の総称。

3 人権侵害の被害や悩みは かかえ込まないで！

❖ 人権侵害のない学修環境維持のために

日本大学では，「人権侵害防止ガイドライン」などを定め，基本的人権を侵害するような差別的な扱いによって，個人の尊厳を不当に傷つける行為を禁じています。人権は難しいものではなく，誰でも心で理解し，感じることのできるものです。人権について正しく理解し，一人ひとりの人権を尊重する意識を持ち行動をしていきましょう。

主な人権侵害には，次のようなものがあります。

- 性（ジェンダー）・国籍・人種・民族・出身地・宗教・思想・信条・性的指向・身体・健康などに関する差別
- セクシュアル・ハラスメント*（セクハラ）
- アカデミック・ハラスメント*（アカハラ）
- アルコール・ハラスメント*（アルハラ）
- SNS を利用した誹謗・中傷
- ストーカー行為，デート DV*　など

❖ 人権侵害を「しない」「させない」ために

- 偏見や差別，誤った知識を排し，互いの人権・人格を尊重することが重要です。
- 相手が拒否し，嫌がっていることがわかった場合には，同じ言動を繰り返さないようにします。拒否されないことを同意や合意と勘違いしてはいけません。
- 問題提起する人をトラブルメーカーとみなしたり，人権侵害を当事者間の問題として無視したりせず，声をかけて相談に乗りましょう。「見て見ぬふり」は，人権侵害への加担とされる場合があります。

セクシュアル・ハラスメント
相手の意に反する性的言動により，相手に不快感や不利益を与え，人権を侵害すること。略して「セクハラ」ともいう。

アカデミック・ハラスメント
教育・研究上の優越的な地位や権限を利用して行われる不適切で不当な言動・指導・待遇により，相手の良好な学修環境を奪うこと。

アルコール・ハラスメント
飲酒やイッキ飲みの強要，意図的な酔いつぶし，飲めない人への配慮を欠くこと，酔った上での迷惑行為（暴言・暴力，ひんしゅく行為，セクハラなど）。

デート DV
交際相手を怖がらせたり，傷つけたりして，自分の思いどおりに動かそうとする態度や行動。

❖ 人権侵害の被害に遭ったら

黙っていたり，無視したりしていても状況は改善されません。かえって行為者に，その言動を容認していると誤解され，エスカレートする場合があります。不快だという気持ちを，相手に対してはっきり伝えることが大切です。決して一人で悩まず，信頼できる人や人権相談オフィス*に相談してください。

❖ 人権相談オフィス

人権相談オフィスでは，学生からの相談を受け付け，学内外の関係分野の専門家（弁護士・医師・精神保健福祉士・看護師・保健師）である人権アドバイザーが，面談を通して問題解決のプロセスを策定します。相談者は，相談したことによって不利益を被ることはありません。相談したことが外部に漏れるなどして不利益を被ったり，プライバシーが侵害されることもありません。相談者の意思を最大限尊重します。

詳しくは，「人権侵害防止リーフレット」や「人権侵害防止・解決ガイド*」のウェブページをご覧ください。

人権相談オフィス（コンプライアンス事務局）の連絡先
TEL. 03-3221-2562
E-mail. jinken@nihon-u.ac.jp

学外相談窓口（光和総合法律事務所）の連絡先
TEL. 03-5562-2521
E-mail. gakugai- jinken@nihon-u.ac.jp

「人権侵害防止・解決ガイド」の URL
http://www.nihon-u.ac.jp/about_nu/effort/human_right/

日本大学の一員として持つべき意識

1 日本大学ダイバーシティ推進宣言

日本大学は，日本大学教育憲章において，「日本の特質を理解し伝える力」，「多様な価値を受容し，自己の立場･役割を認識する力」，「社会に貢献する姿勢」を「日本大学マインド」として掲げ，その育成を使命としています。その実現のためには，多様な人，文化，分野を理解し，受容し，包摂することが必要になります。

日本大学は，設置する全ての組織において，互いの違いとつながりを積極的に肯定し多様性（ダイバーシティ），公平性及び包摂性を推進することを宣言しています。

1. 多様な人を積極的に受け入れ，その属性によらずあらゆる人の尊厳を保ち，各人の個性を尊重しながら全ての人に活躍の場を提供します。
2. 多様な文化と学び方・働き方を尊重し，柔軟な組織運営を遂行します。
3. 多様な分野の教育と研究を推進し，その連帯から新しい知と価値を創造します。
4. あらゆる面で多様性を推進し，切磋琢磨する文化を育みながら，意識の啓発，環境の整備，そして適切な支援体制の構築を図ります。

2 日本大学違法薬物追放宣言

日本大学は，国内最大規模の総合大学として，学生の健全な学修環境の構築と文化，スポーツ活動の一層の推進を図るために，違法薬物に対する明確な「追放」の姿勢を学内外に示す必要があります。そこで本学は，次のとおり『日本大学違法薬物追放宣言』を策定し，全学を挙げて，違法薬物の追放に取り組んでいます。

日本大学違法薬物追放宣言

1. 日本大学は，違法薬物の入手，所持及び使用を認めません。
2. 日本大学は，違法薬物の譲渡，販売及び製造を認めません。
3. 日本大学は，学生に違法薬物の危険性を理解させ，その危険から守ります。
4. 日本大学は，社会における，違法薬物まん延防止活動の推進に協力します。

Message メッセージ

身に付く力を意識し，主体的に学んでほしい

日本大学FD推進センター副センター長／
生産工学部 教授
藤井 孝宜

本学では，教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」，「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け，「日本大学マインド」を有する人材の育成を目指しています。これは皆さんの学びのゴールでもあるので，「日本大学教育憲章」をご自身で確認してください（詳しくは，P.9 で説明）。

各学部・学科等でも，卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定め，卒業までにどのような力を身に付けるべきかを明確にしています。具体的には，シラバスを参照するといいでしょう。シラバスには，各科目を通じてどのような力が身に付くのか明記されています。それを意識して授業に臨めば，きっと学修成果や成長実感として表れていくでしょう。また，何がよくできて，何ができなかったかという振り返りを大切にしてください。それらをポートフォリオにまとめ，改善に生かす習慣も身に付けてほしいと思います。

ここまで，学ぶ姿勢についてお話ししましたが，全学共通初年次教育科目「自主創造の基礎」で，その基礎が養えるでしょう。この科目内では，16 学部・86 学科の学生が参加する「日本大学ワールド・カフェ」も開催されます。他学部の学生とのグループワークを通じて，多様な学生の個性や考え方に触れ，交流する機会です。ここでは，“人に対する発見”を楽しんでください。知らなかった価値観や気づかなかった学びのヒントに出合えるはずです。

令和2年度は新型コロナウイルスの感染防止のため，授業の大半をオンラインで実施しました。対面授業のようにはいかないところもありますが，オンラインだからこそ，場所や時間にしばられず受講できる利点もあることから，今後はオンライン授業と対面授業の併用が予想されます。こうした状況変化の中で新たに必要になるのが，「時間管理」「自己管理」能力です。難しいと感じるかもしれませんが，「自ら学ぶ」気持ちがあれば，それは自然と身に付くものではないでしょうか。新たな時代の一歩を踏み出す皆さんを，教員も全力でサポートしていきます。恐れることなく，1年次に「自ら学ぶ」という大学の学修リズムを手に入れてほしいと思います。

企画・編集

学務委員会全学共通初年次教育検討ワーキンググループ

リーダー	蓼沼　智行（国際関係学部教授）	
メンバー	林　誠吾（法学部助教）	間篠　剛留（文理学部准教授）
	岡島　慶（経済学部准教授）	佐藤　佑介（商学部准教授）
	畑瀬　聡（芸術学部専任講師）	永井 雄一郎（国際関係学部准教授）
	加藤　幸真（スポーツ科学部専任講師）	中村　文紀（理工学部准教授）
	髙橋　亮輔（理工学部准教授）	大熊　康典（生産工学部教授）
	北島 雄一郎（生産工学部教授）	宮田　公治（工学部准教授）
	三澤 麻衣子（歯学部専任講師）	炭山　大輔（生物資源科学部専任講師）
	石毛 久美子（薬学部教授）	田中 佐知子（薬学部教授）
協　力	長瀬　浩明（芸術学部教授）	

全学ＦＤ委員会教育情報マネジメントワーキンググループ

リーダー	玉蟲　由樹（法学部教授）	
メンバー	所　伸之（商学部教授）	山添　謙（危機管理学部准教授）
	杉浦　隆次（工学部教授）	阿部 百合子（医学部准教授）
	髙橋　恭子（生物資源科学部教授）	後藤　英次（学務部学務課課長）
	濱野　泰三（学務部学務課課長補佐）	川田　和希（学務部学務課主任）
協　力	藤田　晶子（法学部准教授）	

このガイドブックは，多くの方々や関係部署のご協力により作成されています。
この場をお借りして，感謝申し上げます。
※本ガイドブックに記載した役職，資格等については，令和6（2024）年3月現在のものです。

『ミライヲツクル』に関する新たなアイデアやご意見などがありましたら，
学務部学務課(adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp) へお寄せください。

ミライヲツクル
Learning Guide

発行日　令和6（2024）年4月1日　第13版

発行者　日本大学FD推進センター
〒102-8275　東京都千代田区九段南4-8-24
電話：03-5275-8314　FAX：03-5275-8315
e-mail：adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp
所管部署：日本大学 本部 学務部学務課

日本大学ＦＤ推進センターウェブサイト
http://www.nihon-u.ac.jp/fd-center/

ＦＤ推進センターでは，本学のＦＤに関する取組や『ミライヲツクル』をはじめとする各種発行物などをウェブサイトに掲載しています。ぜひ，ご活用ください。

本書に掲載した文章，写真，イラスト，図版等の無断転載・複製を禁じます。
Copyright ©Nihon University 2024 All Rights Reserved.